

三菱UFJフィナンシャル・グループ

# 2009年度決算説明会

2010年5月21日

Quality for You



MUFG

本書には、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(以下「当社」という)およびそのグループ会社(以下「当グループ」という)に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポートをご参照下さい。

なお、本書における将来情報に関する記述は上記のとおり本書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本書に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本書の計数は日本会計基準ベースの数値を使用しています。

#### <本資料における計数の定義>

連結	: 三菱UFJフィナンシャル・グループ(連結)
単体合算	: 三菱東京UFJ銀行(単体)と三菱UFJ信託銀行(単体)の単純合算

## 2009年度決算の概要

● 2009年度決算サマリー(P/L)	5
● 2009年度決算サマリー(B/S)	6
● 部門別業績概要	7
● リテール	8
● 法人国内	9
● 法人海外	10
● 受託財産	11
● 貸出資産	12
● 保有有価証券	13
● 自己資本	14
● 2010年度業績目標／配当金予想	15

## MUFGの経営戦略

● 2009年度の総括	17
● 経営方針	18
● 主要事業戦略	19
● モルガン・スタンレーとの戦略的提携	20
● アジア戦略	23
● 北米戦略	24
● リテール戦略	25
● グローバル・アセット・マネジメント戦略	28
● 経営効率化	29
● 政策投資株式の削減	30
● 強固な資本基盤	31
● 資本政策	32
● MUFGの目指す姿	33

## Appendix

余白

## ● 2009年度決算の概要

## ● MUFGの経営戦略

# 2009年度決算サマリー(P/L)

【連結】



(単位:億円)

## ●業務純益

- 業務粗利益は金利低下に伴う預金収益の減少の一方、法人貸出収益、市場関連収益の増加やアコム連結化などにより増加
- 営業費は統合効果に加え、グループ挙げでの経費削減への取り組みにより、アコム連結化要因を除けば減少
- 以上の結果、実質業務純益は増加、アコム連結化を除いても大幅な増益を確保

## ●与信関係費用総額

- 単体合算では略横這いだが、その他連結子会社での増加、アコム連結化により増加

## ●株式等関係損益

- 株式等償却の減少のほか、政策投資株式の売却益計上等もあり大幅な改善

## ●その他の臨時損益

- 退職給付費用の増加を主因に減少

### <連結P/L>

	08年度	09年度	増減	除く アコム
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	32,729	36,004	3,275	1,514
2 資金利益	19,759	21,771	2,012	441
3 信託報酬+役務取引等利益	10,895	10,936	41	▲117
4 特定取引利益+その他業務利益	2,074	3,295	1,221	1,191
5 うち国債等債券関係損益	809	498	▲310	▲310
6 営業費	20,837	20,848	11	▲686
7 実質業務純益	11,891	15,155	3,263	2,201
8 与信関係費用*1	▲6,084	▲8,252	▲2,167	▲1,169
9 株式等関係損益	▲4,087	324	4,412	4,404
10 その他の臨時損益	▲891	▲1,771	▲880	▲759
11 経常利益	828	5,456	4,628	4,677
12 特別損益	322	510	187	166
13 法人税等合計	3,019	1,509	▲1,509	▲1,526
14 当期純利益	▲2,569	3,887	6,456	6,516
15 与信関係費用総額*2	▲6,084	▲8,252	▲2,167	▲1,169
16 うち単体合算	▲3,901	▲4,044	▲142	▲142

\*1 与信関係費用=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益内) (▲は費用)

\*2 与信関係費用総額=与信関係費用+貸倒引当金戻入益+偶発損失引当金戻入益(与信関連) (▲は費用)

### <ご参考>

(単位:円)

17 経費率(連結)	63.6%	57.9%	▲5.7%
18 経費率(単体合算)	60.4%	55.3%	▲5.0%
19 1株当たり利益	▲25.04	29.57	54.61
20 連結ROE *3	▲3.97%	4.92%	8.90%

\*3

当期純利益-非転換型優先株式年間配当相当額

((期首株主資本合計-期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整勘定)

+ (期末株主資本合計-期末発行済非転換型優先株式数×払込金額+期末為替換算調整勘定))÷2

×100

## ●貸出金

■泉州銀行の非連結化や内外法人貸出の減少により09年9月末比減少

## ●有価証券

■国債投資の増加により、09年9月末比大幅な増加

## ●預金

■海外店預金は減少の一方、国内預金の大幅増加により09年9月末比増加

## ●開示債権

■開示債権の増加により、開示債権比率は09年9月末比悪化も、依然低水準

## ●その他有価証券評価損益

■国内株式、その他を中心に09年9月末比改善

## ●自己資本比率

■増資等により、09年9月末比大幅に上昇

### <連結B/S>

(単位:億円)

		10年3月末	09/3末比	09/9末比
1	貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	850,359 [848,806]	▲72,206 [▲71,762]	▲31,712 [▲31,514]
2	うち国内法人貸出*1	477,719	▲24,672	▲3,411
3	うち住宅ローン*1	174,673	1,031	1,658
4	うち海外貸出*2	166,517	▲28,368	▲8,492
5	有価証券(銀行勘定)	639,644	156,503	65,800
6	預金	1,238,919	37,423	18,482
7	うち個人預金(国内店)	630,453	1,637	2,009
8	国内預貸金利回り差 (単体合算)	(09年下期) 1.31%	(08年下比) ▲0.13%	(09年上比) ▲0.03%
9	金融再生法開示債権*1	13,487	1,588	1,028
10	開示債権比率*1	1.50%	0.25%	0.12%
11	その他有価証券評価損益	8,127	17,304	3,978
12	連結自己資本比率 (Tier1比率)	14.87% (10.63%)	3.09% (2.86%)	1.57% (1.50%)

\*1 単体合算+信託勘定

\*2 海外支店+ユニオン・バンカル・コーポレーション+BTMU(中国)

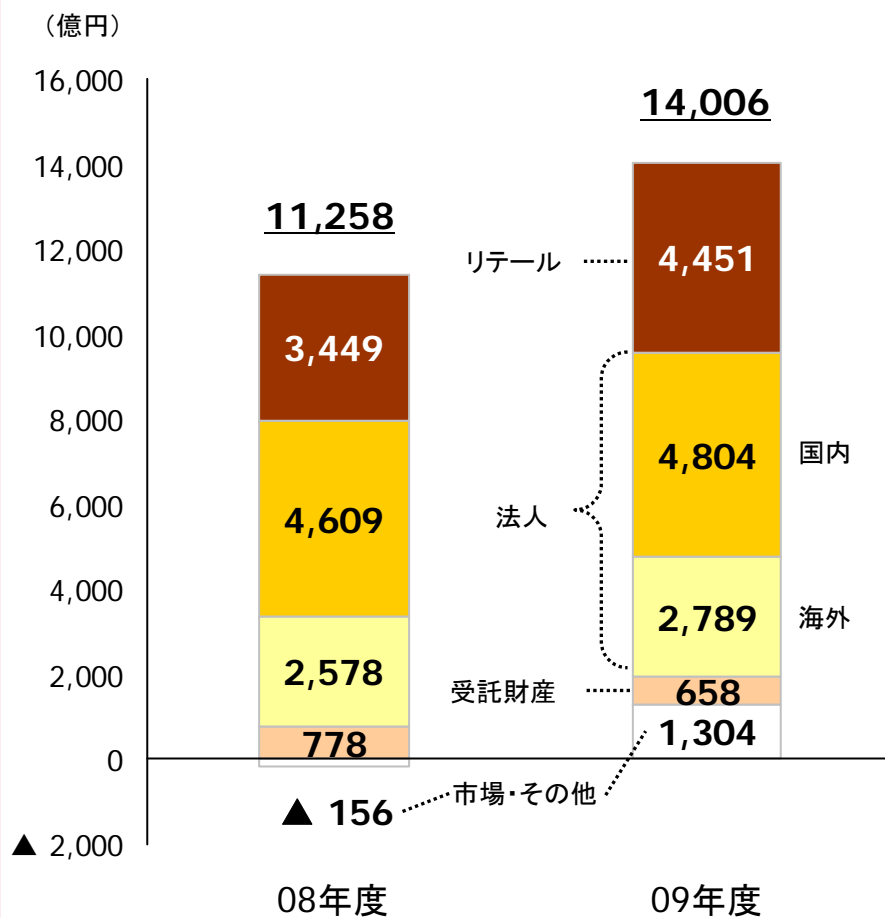
# 部門別業績概要

【連結】

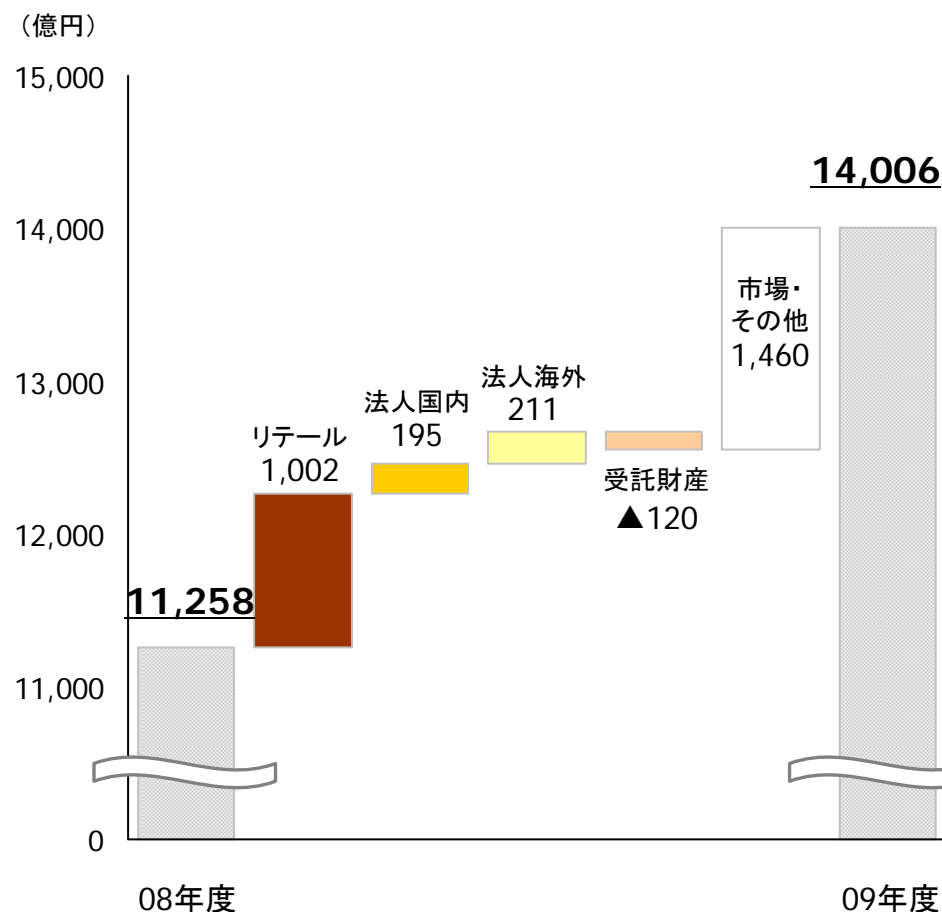


- 営業純益は受託財産を除く全部門で増加し、全体では前年度比+2,748億円の増益
- 金利低下に伴う預金収益等の減少を貸出および市場関連収益の増加や経費削減等でカバー

## 部門別営業純益\*1



## 営業純益増減内訳\*1



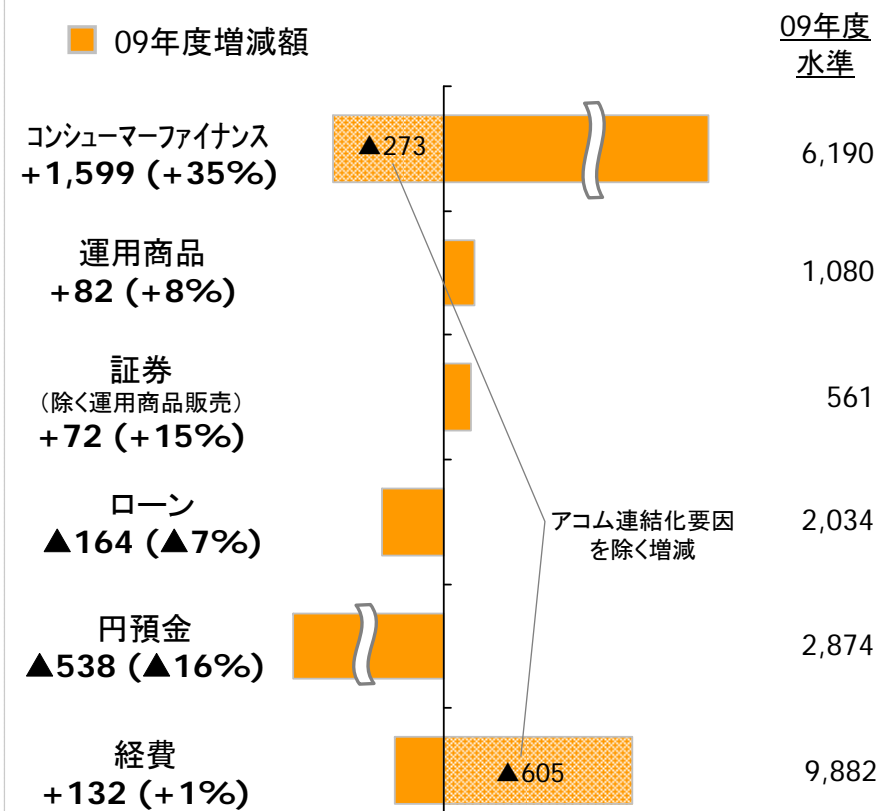
\*1 管理ベースの連結業務純益  
信用リスクヘッジに係るクレジットデリバティブ損益は「市場・その他」に計上



- 営業純益は前年度比+1,002億円の4,451億円  
～アコム連結化に加え、運用商品販売収益や証券収益が増加

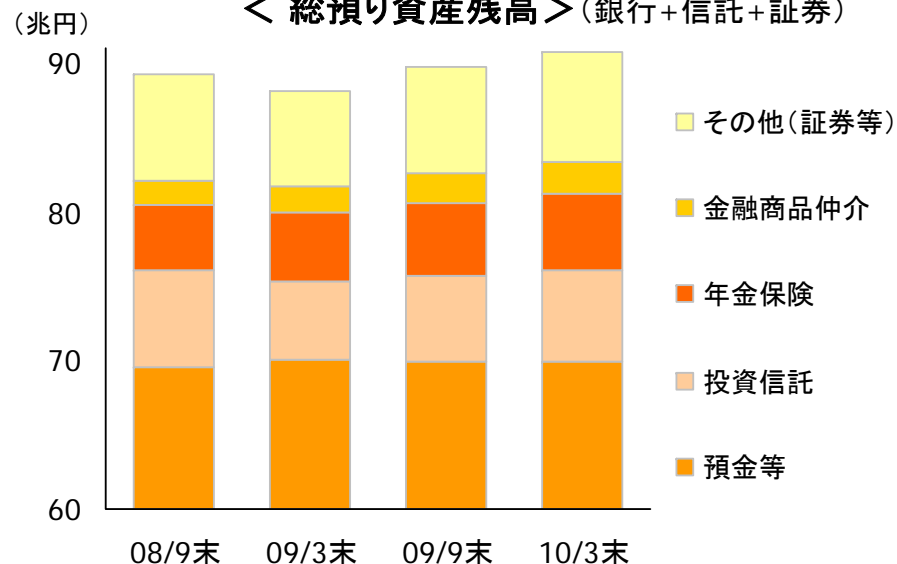
## 営業純益の主な変動要因

09年度 4,451億円 (08年度比+1,002億円)

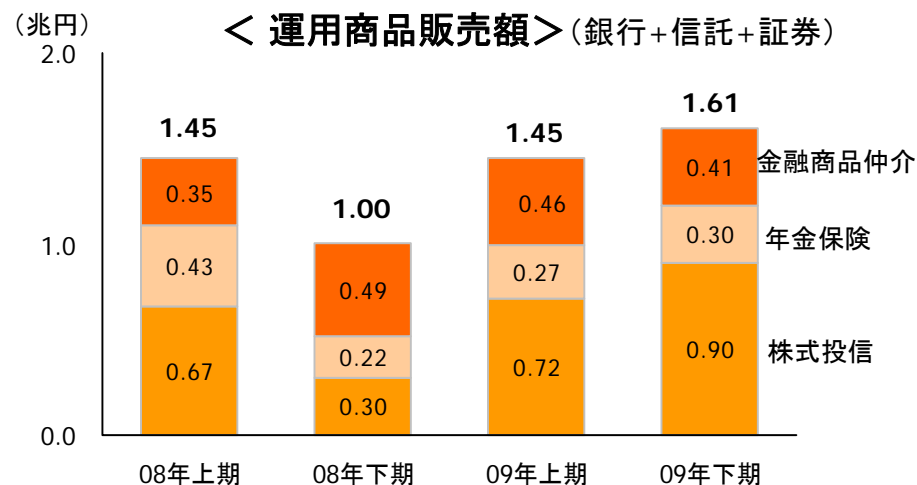


詳細は「データブック」P. 40～45をご参照ください

## ＜総預り資産残高＞ (銀行+信託+証券)



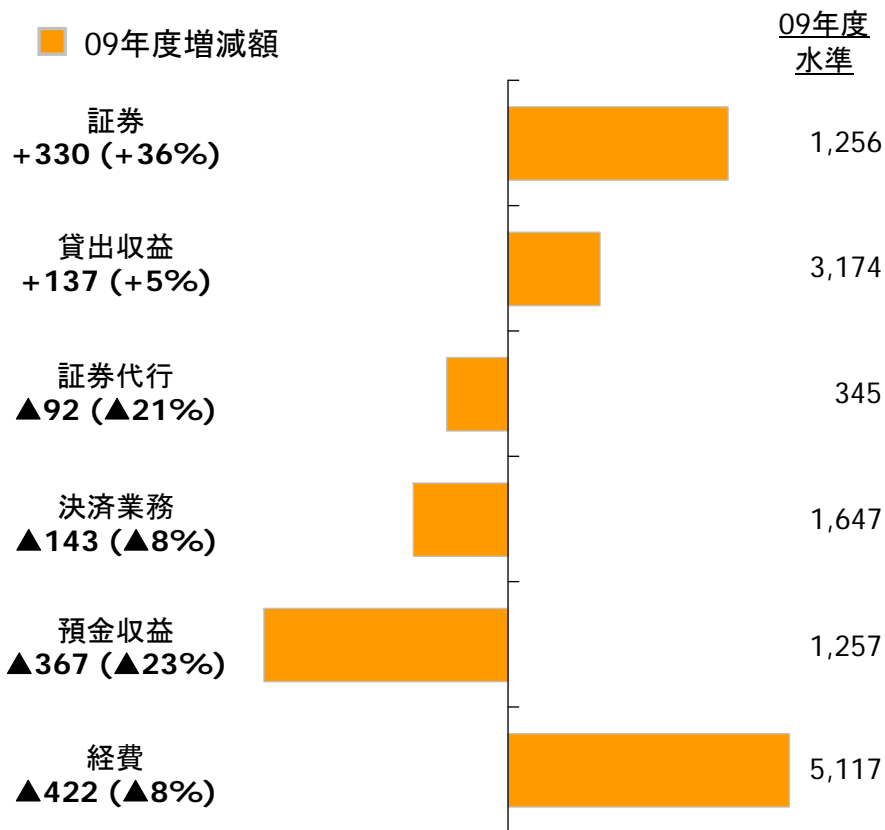
## ＜運用商品販売額＞ (銀行+信託+証券)



- 営業純益は前年度比+195億円\*1の4,804億円\*1  
～証券、貸出業務で増収、貸出スプレッドは底打ち

## 営業純益の主な変動要因

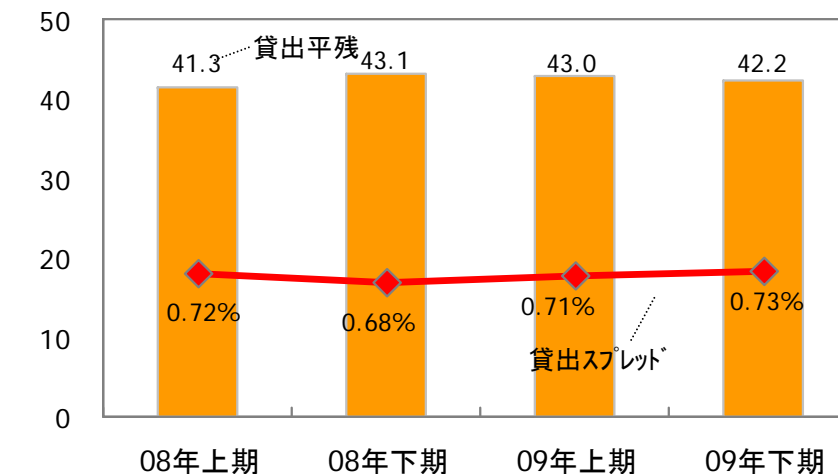
09年度4,804億円\*1 (08年度比+195億円)



\*1 CDS損益を含まず

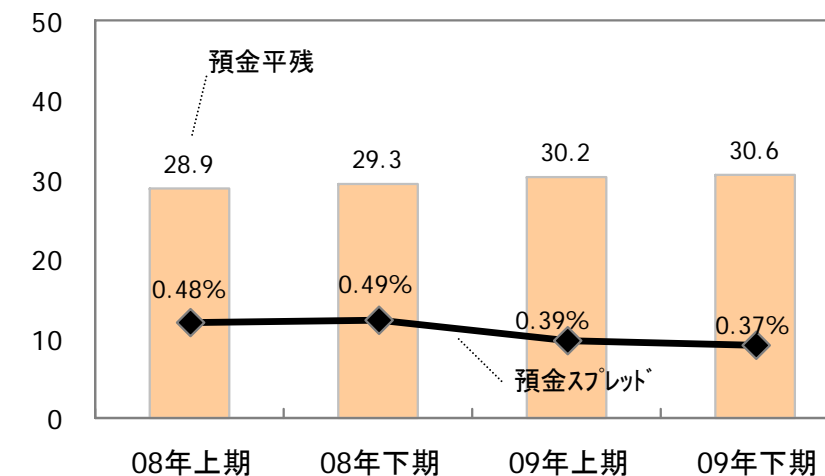
(兆円)

## < 国内法人貸出 >



(兆円)

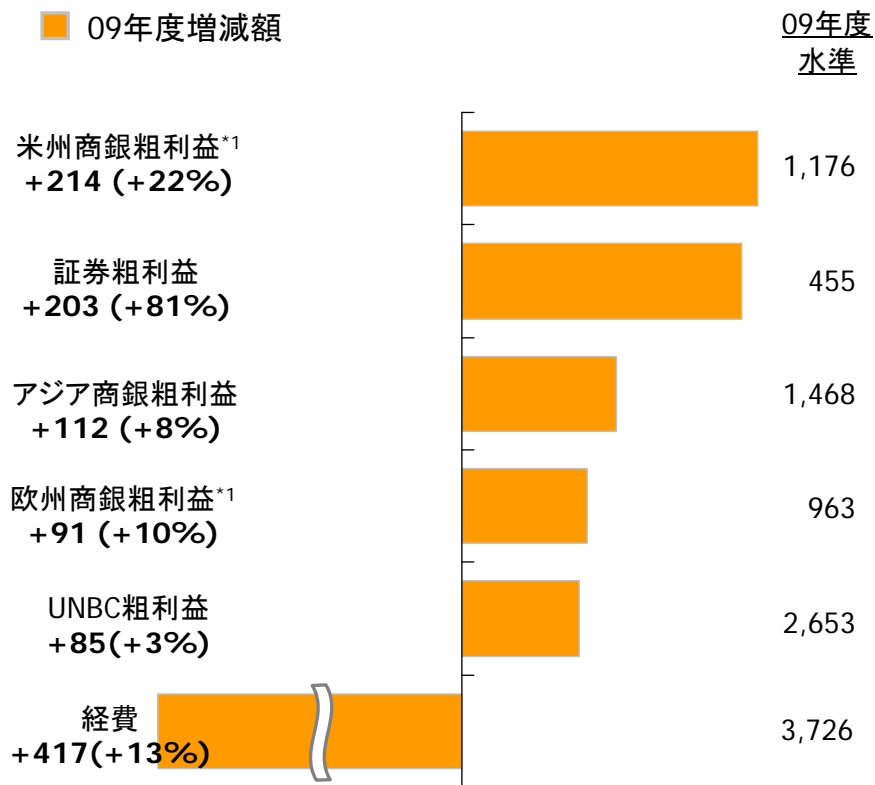
## < 国内法人円預金 >



- 営業純益は前年度比+211億円\*1の2,789億円\*1  
 ~ 欧米アジアとも非日系ビジネス中心に収益増加、貸出スプレッドは更に拡大

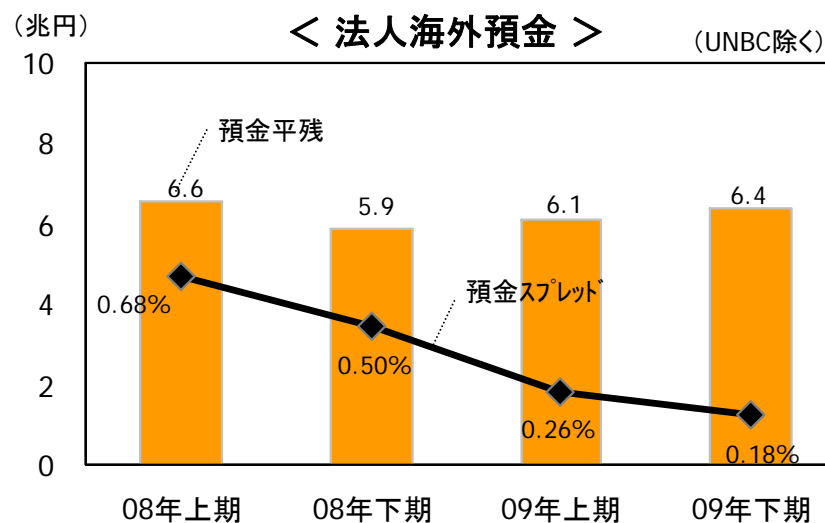
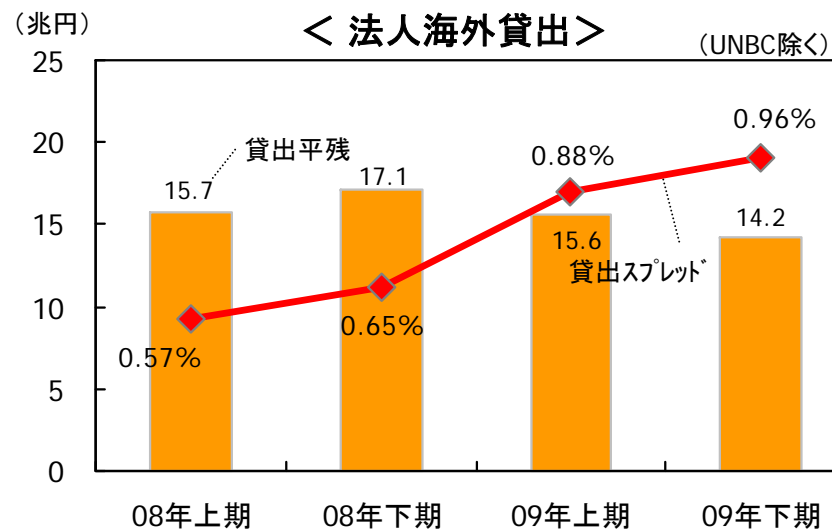
## 営業純益の主な変動要因

09年度2,789億円\*1 (08年度比+211億円)



\*1 CDS損益を含まず

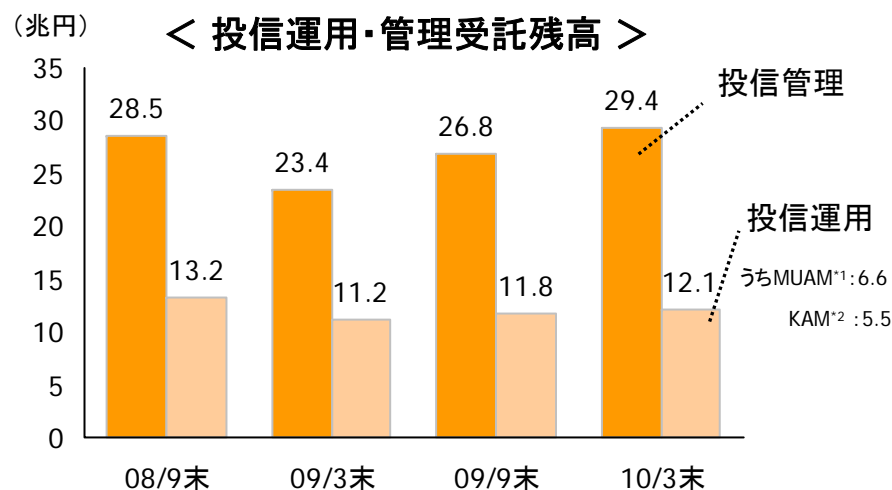
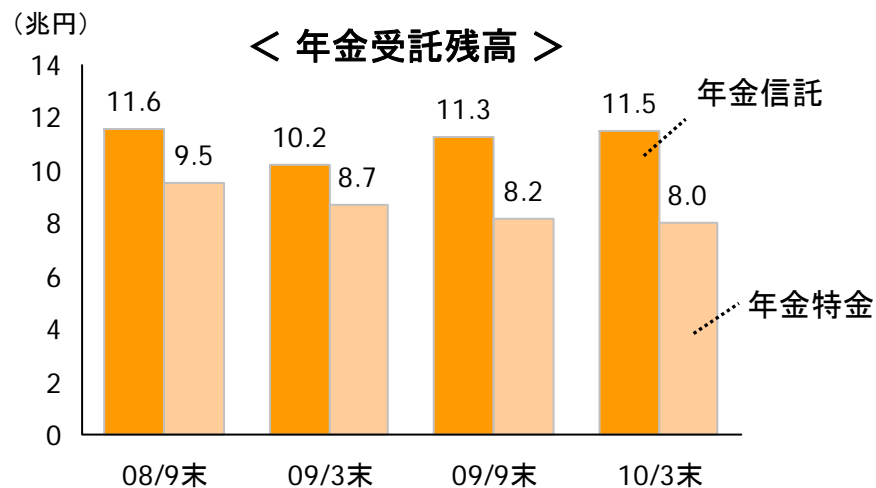
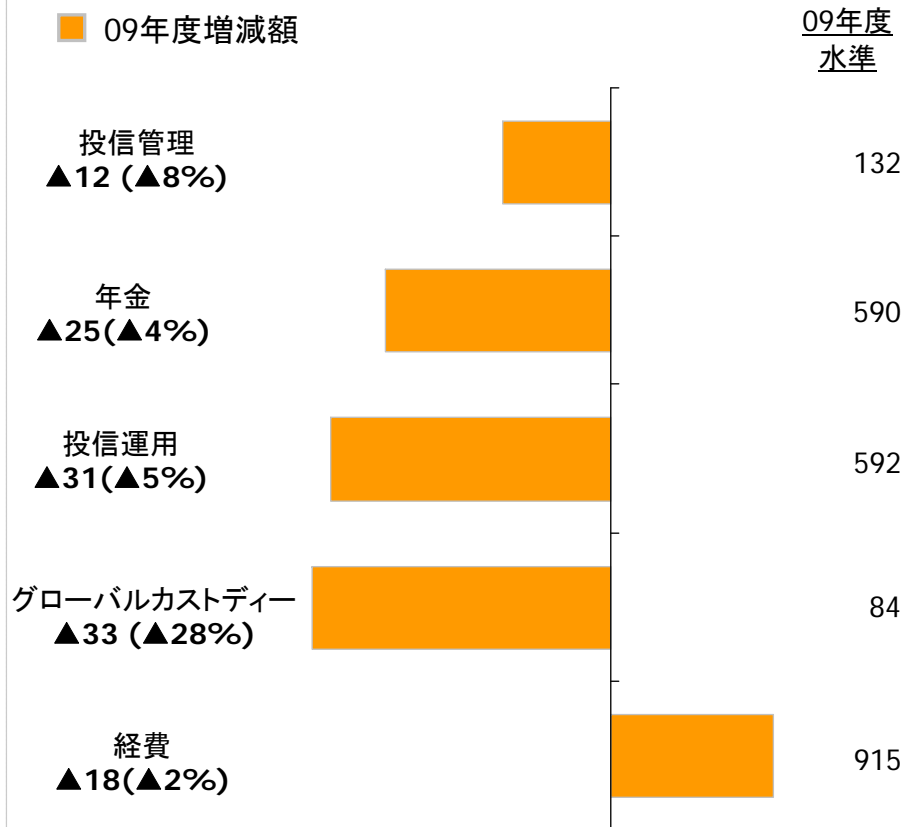
詳細は「データブック」P. 51~55をご参照ください



- 営業純益は前年度比▲120億円の658億円  
～08年度の残高減少が影響し減収、ただし時価回復により年度末残高は増加

## 営業純益の主な変動要因

09年度 658億円 (08年度比▲120億円)



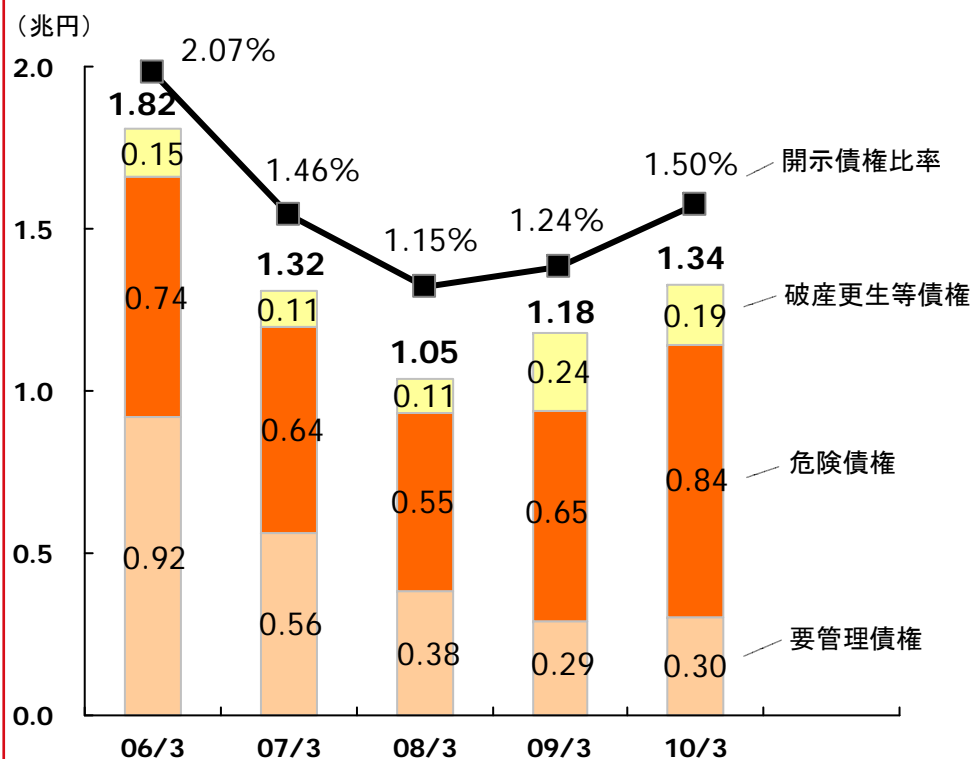
\*1 MUAM: 三菱UFJ投信

\*2 KAM: 国際投信投資顧問

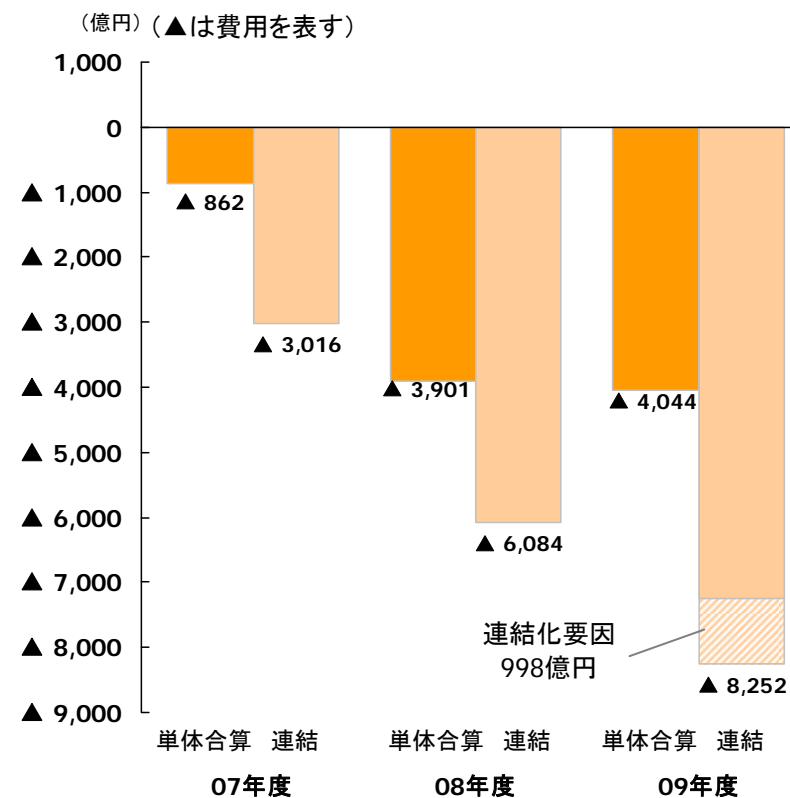
詳細は「データブック」P. 56～59をご参照ください

- 開示債権比率は上昇するも、引き続き低水準
- 与信関係費用総額は単体合算で4,044億円、連結では8,252億円の費用計上

## 金融再生法開示債権残高(単体合算)



## 与信関係費用総額



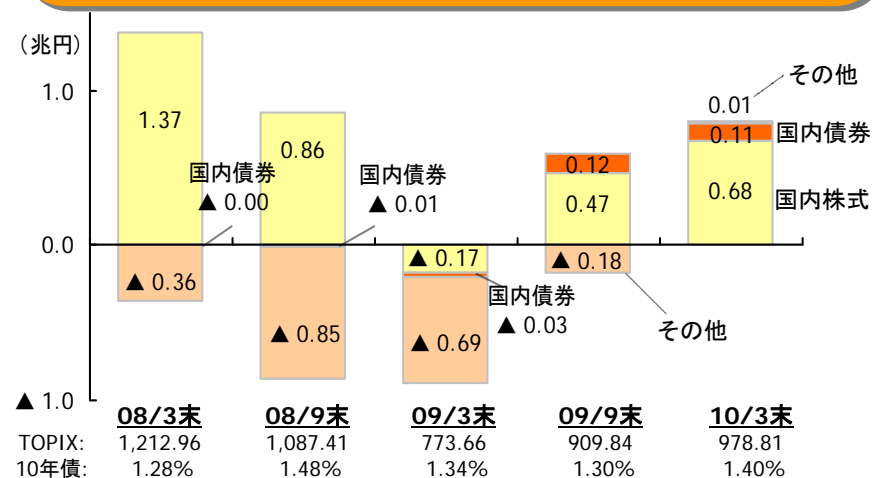
- 株式相場の上昇等を背景に、国内株式、その他を中心に評価損益が改善  
 その他有価証券全体の評価損益は09/9末比3,978億円増加

## その他有価証券(時価あり)の内訳

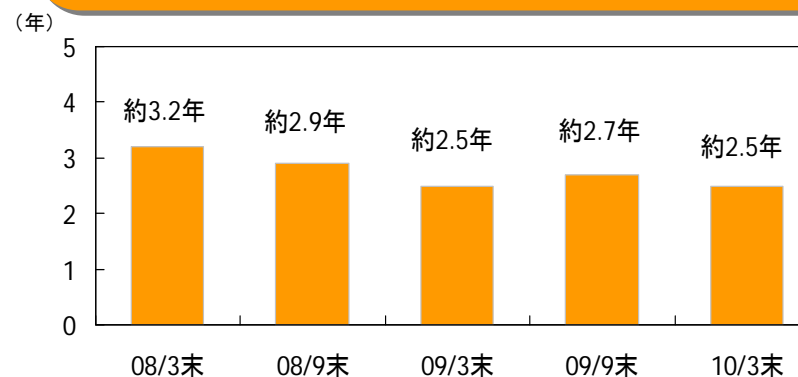
(億円)

	10年3月末 残高	評価損益	
			09/9末比
合計	604,063	8,127	3,978
国内株式	42,773	6,817	2,049
国内債券	433,766	1,171	▲71
国債	387,480	799	▲222
その他	127,523	138	2,000
外国株式	2,825	735	99
外国債券	107,025	772	161
その他	17,671	▲1,370	1,739

## その他有価証券評価損益の推移



## 国債デュレーションの推移\*1



\*1 単体合算

## ● 自己資本額

■ 普通株増資による資本金・資本剰余金の増加に加え、利益剰余金や有価証券含み益の増加等により、09年9月末比1.04兆円増加

## ● リスクアセット

■ 法人貸出金の減少や泉州銀行の非連結化等を主因に、09年9月末比3.28兆円減少

〔採用手法〕

■ 信用リスク: 先進的内部格付手法 (AIRB)

■ オペレーショナルリスク: 粗利益配分手法

● 自己資本比率 : 14.87%  
 Tier1比率 : 10.63%  
 コアTier1比率\*1 : 8.28%

\*1 コアTier1 = Tier1 - (優先株式 + 優先出資証券)  
 コアTier1比率 = コアTier1 ÷ リスクアセット

(単位: 億円)

	09年3月末	09年9月末	10年3月末	09/9末比
1 自己資本比率	11.77%	13.29%	14.87%	1.57%
2 Tier1比率	7.76%	9.13%	10.63%	1.50%
3 コアTier1比率	5.77%	6.83%	8.28%	1.45%
4 Tier 1	75,751	88,943	100,096	11,152
5 うち資本金・資本剰余金	35,189	35,188	45,599	10,410
6 うち利益剰余金	41,686	42,382	44,055	1,672
7 Tier 2	42,161	43,835	44,496	660
8 うち有価証券含み益	—	1,851	3,627	1,775
9 自己資本	114,784	129,489	139,917	10,428
10 リスクアセット	974,934	973,682	940,813	▲32,869
11 信用リスク	902,429	899,023	852,927	▲46,095
12 マーケットリスク	15,876	17,776	19,027	1,251
13 オペレーショナルリスク	56,627	56,883	68,858	11,974

# 2010年度業績目標／配当金予想

【連結・単体】



## 【業績目標】

〔連結〕

		中間期 (参考値)	10年度通期 (目標)
1	経常利益	3,700億円	8,300億円
2	当期純利益	1,700億円	4,000億円

## 【配当金予想】

		中間配当金 (予想)	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)
1	普通株式1株当たり 配当金	6円	6円	12円

## 〔三菱東京UFJ銀行〕

(単体)		中間期 (参考値)	10年度通期 (参考値)
1	実質業務純益	4,150億円	8,700億円
2	経常利益	2,450億円	5,500億円
3	当期純利益	1,450億円	3,300億円

## 〔三菱UFJ信託銀行〕

(単体)		中間期 (参考値)	10年度通期 (参考値)
1	実質業務純益	650億円	1,450億円
2	経常利益	450億円	1,050億円
3	当期純利益	250億円	650億円



● 2009年度決算の概要

● **MUFGの経営戦略**

## ● 危機対応から正常化へ第一歩、成長への足固め

### ➤ 当期純利益は目標を上回る3,887億円

～粗利増と経費削減により業純増加、株式償却も減少

### ➤ 経営課題への対応は着実に進捗

～経営効率化、政策投資株式の削減、資本増強など

～モルガン・スタンレーとの提携も国内外で進展

### ➤ 円滑な資金供給等を通じて社会・経済の血流としての役割に注力

- 「危機管理」から「成長戦略の加速」へ軸足をシフト

2009年度

2010年度

2011年度

危機管理と飛躍への準備

成長戦略の加速

- ① 新たな自己資本規制への対応
- ② 経営効率化
- ③ 政策投資株式の削減
- ④ 安定的株主還元の確保

- ① 重点事業領域の成長促進
- ② 効率性の維持・向上
- ③ 株式リスクの抑制
- ④ 健全な自己資本の維持・充実
- ⑤ 株主価値の向上  
～安定的株主還元の確保/株主還元の充実

- **モルガン・スタンレーとの戦略的提携**
- **アジア・北米**
- **リテール**
- **グローバル・アセット・マネジメント**

# モルガン・スタンレーとの戦略的提携 (1)



- グローバルベースで戦略的提携が着実に進展
- 出資からも高いリターンを享受

## グローバル・アライアンス戦略

### (1) 日本における証券事業の統合

～三菱UFJモルガン・スタンレー証券(MUMSS)、  
モルガン・スタンレーMUFG証券(MSMS)発足  
(10年5月)

### (2) コーポレートファイナンスにおける協働

～米州ローン・マーケティングJV設立(09年7月)  
～アジア、欧州・中東・アフリカ(EMEA)における  
相互顧客紹介

### (3) コモディティ業務における顧客紹介

### (4) 人材交流

～BTMUから順次派遣を開始

他の業務分野における施策も随時検討

## モルガン・スタンレーへの出資

### (1) 出資の概要

普通株	1,176百万ドル	4,655万株
転換型優先株	7,839百万ドル	783万株
社債型優先株	519百万ドル	51万株

・MUFGは潜在株式調整後で出資比率20%を維持する  
権利を有するほか、出資比率10%以上を維持する  
限りにおいて、取締役1名を派遣する権利を有する

### (2) 09年度収益貢献

・配当収入 782億円

### (3) モルガン・スタンレーの株価推移



# モルガン・スタンレーとの戦略的提携 (2)

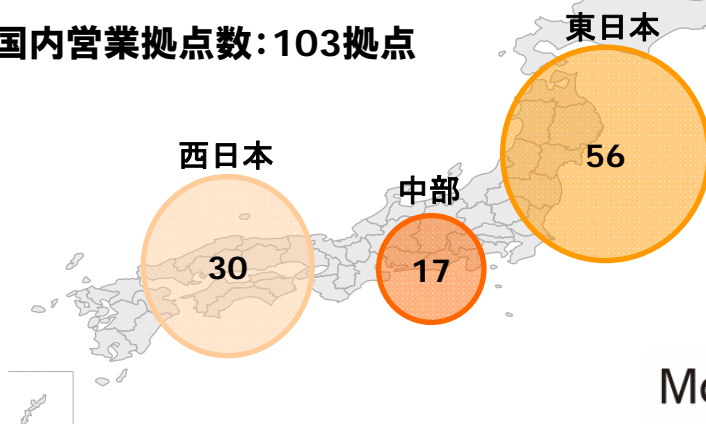


- 両社のネットワークと顧客基盤等を最大限活用すべく、本邦に2つの共同出資の証券会社を設立
- 投資銀行ビジネスの主要プロダクト(M&A、エクイティ、債券など)において本邦ナンバーワンを目指す

## 両社のネットワークを最大限活用

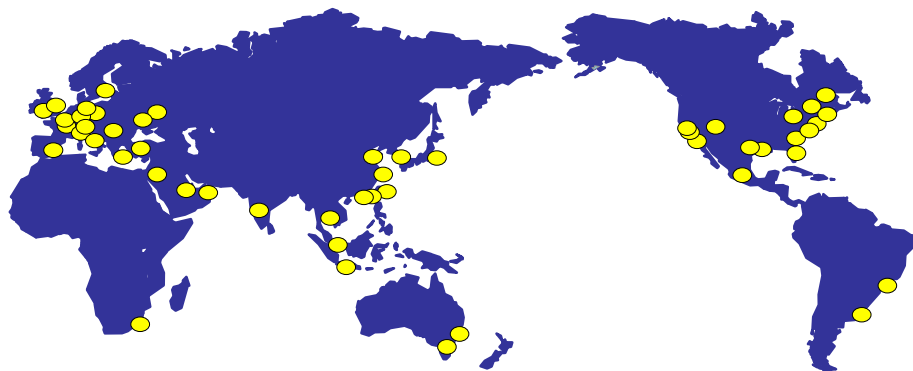
三菱UFJモルガン・スタンレー証券 (MUMSS)

国内営業拠点数: 103拠点



Morgan Stanley

世界37カ国に600を超える拠点網



## 新証券のポジション

M&A <sup>*1</sup>		(09年4月～10年3月)		
順位	証券会社	案件数	金額(億円)	シェア(%)
1	野村證券	120	42,281	35.1
2	<b>MUFG+MS</b>	<b>90</b>	<b>36,055</b>	<b>30.0</b>
3	みずほフィナンシャルグループ	126	33,767	28.0

\*1 日本企業関連公表案件ベース(不動産案件を除く)

エクイティ引き受け		(09年4月～10年3月)		
順位	証券会社	発行数	金額(億円)	シェア(%)
1	野村証券	65	21,669	32.8
2	大和証券キャピタル・マーケット	46	10,423	15.8
3	<b>MUFG+MS</b>	<b>55</b>	<b>9,141</b>	<b>13.8</b>

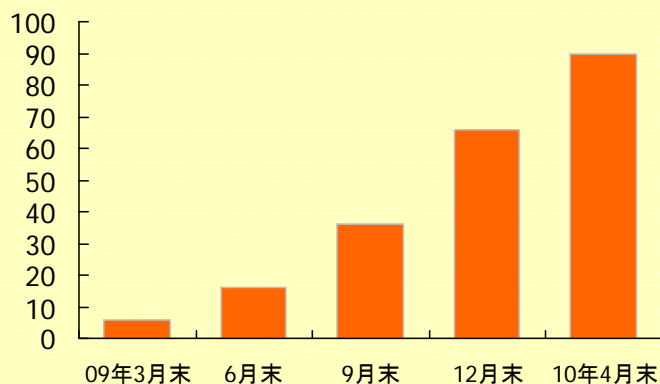
国内債		(09年4月～10年3月)		
順位	証券会社	発行数	金額(億円)	シェア(%)
1	野村証券	245	28,422	21.0
2	みずほ証券	227	27,593	20.4
3	<b>MUFG+MS</b>	<b>219</b>	<b>27,315</b>	<b>20.2</b>

出所: Thomson Reuter より当社作成

- コーポレートファイナンスにおける協働では、グローバルに着実な成果

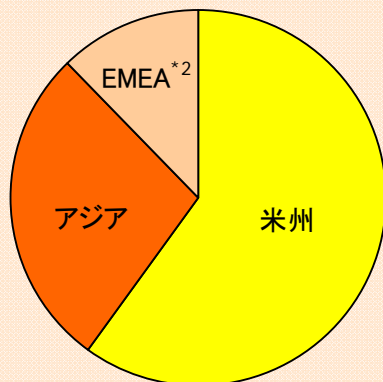
## 協働実績

### (1) 累積成約件数\*1



\*1 マンデート取得件数を含む、MUFGの内部管理計数

### (2) 累積成約件数地域別内訳



\*2 欧州・中東・アフリカ

## 各地域での主な協働案件

### 【米州】

- ・化学肥料メーカーA社による大型買収案件(10年4月)  
～両社がJoint Lead Arrangerとして大型買収ファイナンスのシンジケートローン全額引受をコミット
- ・ケーブルTV大手B社による米メディアC社の経営権獲得案件(09年12月)  
～両社コミット額は、合計で銀行団中最大

### 【EMEA】

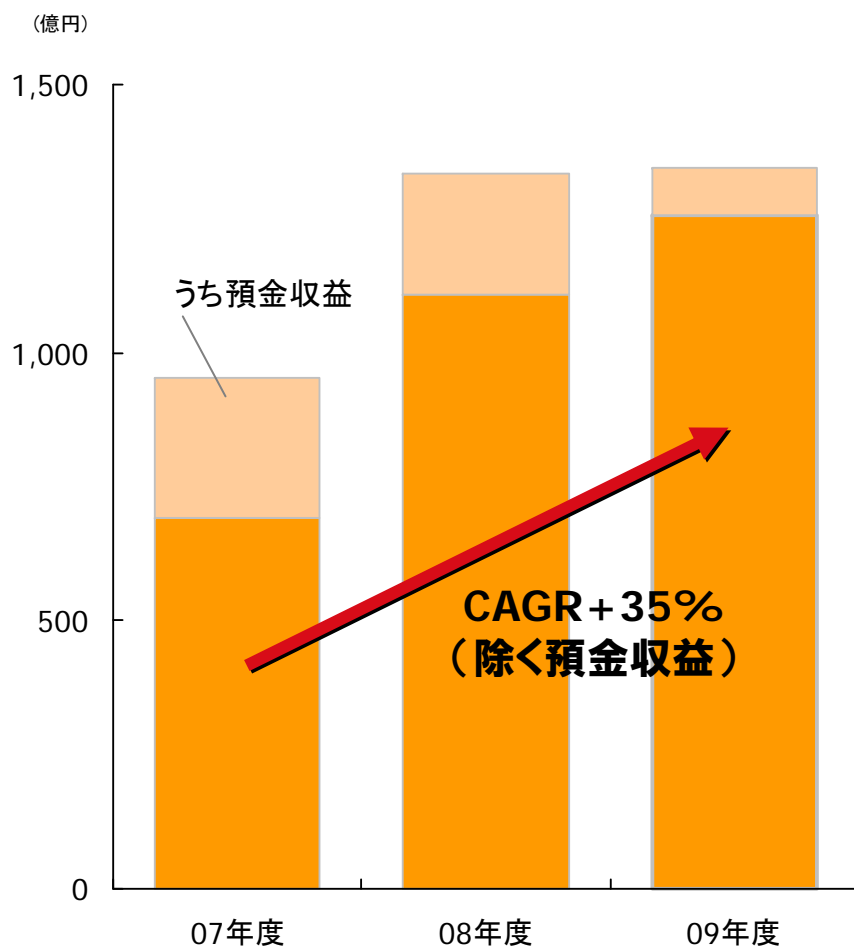
- ・D社向けシンジケートローン(09年10月)  
～BTMUの貿易金融とMSのコモディティのノウハウを活用、両社がInitial Mandated Lead Arrangerとして案件を組成

### 【アジア】

- ・シンガポール大手不動産E社資金調達案件(10年3月)  
～MSIによるMTNアレンジとBTMUのローンを組み合わせたスキームにより、資金調達案件を組成

- 金利低下による預金収益減少を打ち返し、粗利は堅調に増加
- 中国での出店、インド拠点増資など、更なる成長に向け態勢整備
- シンジケートローン業務におけるプレゼンスも拡大

## アジア地域の粗利益\*1の推移



\*1 計画レートベース

## オーガニック戦略

### ■ BTMU中国

- ・外銀第一陣で「人民元建て貿易決済業務取扱資格」を取得(09年9月)
- ・外銀として初めて中国本土で「人民元建て金融債」を発行(10年5月)
- ・西部で邦銀初となる成都支店を開設(10年3月)

### ■ インド拠点の増資

- ・経済成長に伴う資金需要増大に対応し、資本増強を実施(10年1月)

## アジアシローン リーグテーブル\*1,2

順位	銀行名	組成額 (US\$百万)	件数
1	中国銀行	5,643	39
2	DBS銀行	4,377	66
3	三菱東京UFJ銀行	3,463	57
4	スタンダード・チャータード銀行	3,381	68
5	香港上海銀行	3,257	59

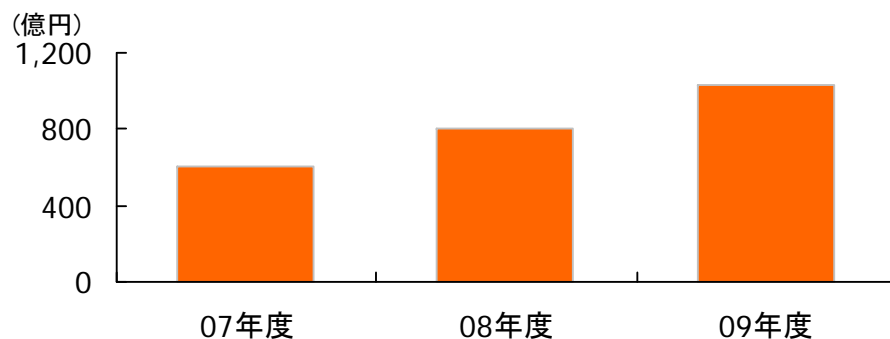
\*1 2009年1-12月のアジアシローンアレンジャーランキング

\*2 除く日本・豪州。国際通貨ベース(US\$, 日本円, ユーロ, シンガポール\$, 香港\$)



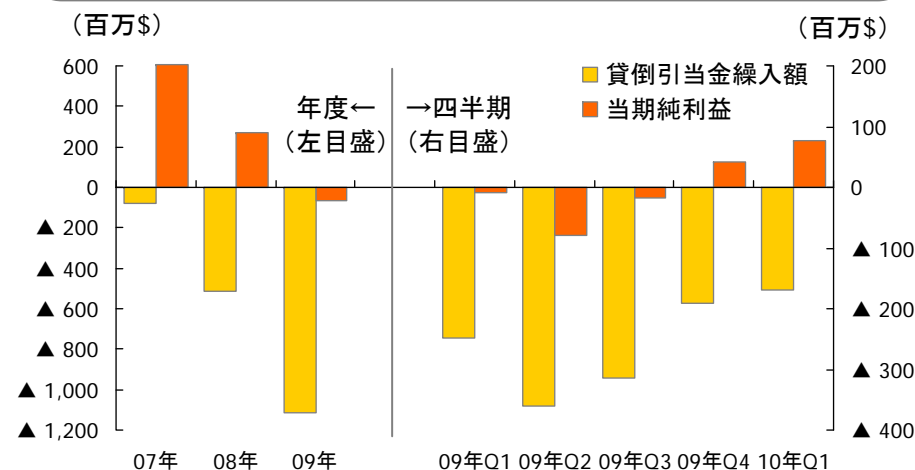
- BTMUの粗利は非日系業務を中心に堅調に増加
- 与信費用の低下によりUBの業績は改善
- ノンオーガニック手法の活用、BTMU/UBの連携強化により成長加速へ

## BTMU北米地域の粗利益推移\*1



\*1 計画レートベース、CDS損益を含まず

## UBの業績推移



## 北米戦略のポイント

### ■ BTMU/UB連携強化

- ・電力等の分野におけるプロジェクトファイナンスでMUFGのブランドネームを使用し、共同マーケティングを開始(10年2月)
- ・09年米州プロジェクトファイナンスランキング1位

### ■ ノンオーガニック成長

- ・UBが米連邦預金保険公社(FDIC)アシスト案件として加州Tamalpais Bank、ワシントン州Frontier Bankの資産・負債を買収(10年4月)
- ・優良投資機会には今後も積極的に対応

	Tamalpais Bank	Frontier Bank
資産 (うち貸出)	約6億ドル (約5億ドル)	約32億ドル (約28億ドル)
預金	約4億ドル	約25億ドル
ネットワーク	加州マリン郡に7店舗	ワシントン州に47店舗 オレゴン州に4店舗

# リテール戦略 (1)～セグメント戦略



- お客様の特性に応じたセグメント戦略を推進

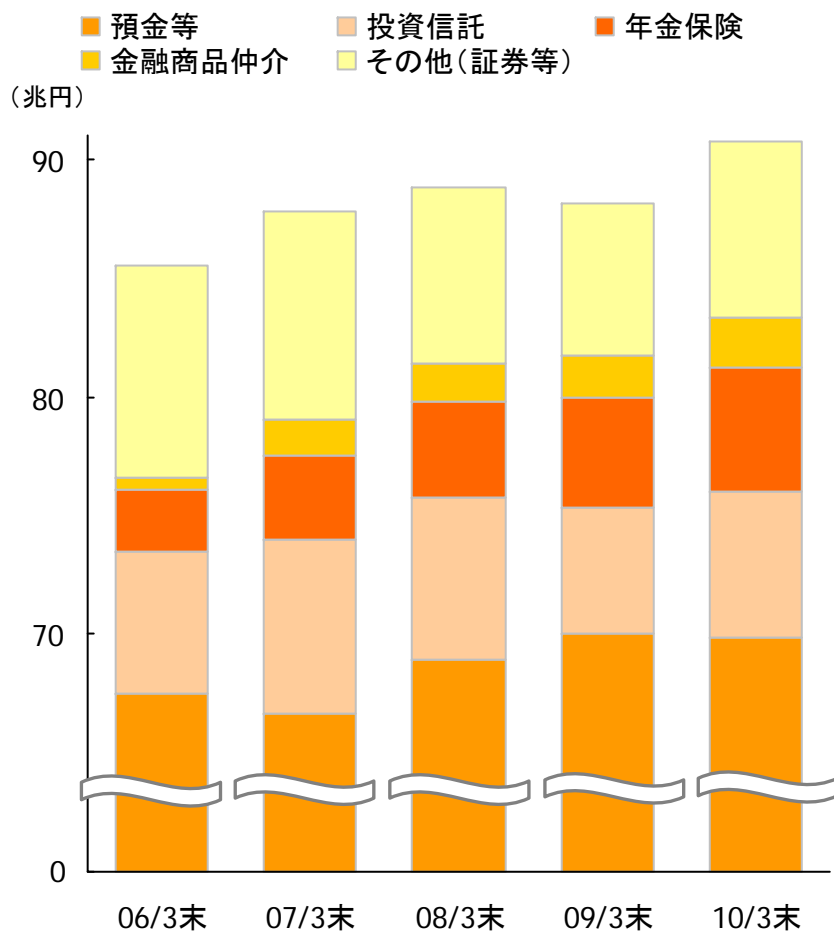
	業務戦略	グループ内連携
プライベート バンキング層	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 総資産営業<ul style="list-style-type: none"><li>～ 多様な運用商品 (投信・保険等)</li><li>～ PB層向け貸出</li><li>～ オーナー層への資産承継・事業継承提案</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 銀信・信証協働<ul style="list-style-type: none"><li>～ 相続・不動産業務強化</li></ul></li></ul>
フィナンシャル プランニング層	<ul style="list-style-type: none"><li>■ マーケティング高度化</li><li>■ メインバンクプラス<ul style="list-style-type: none"><li>～ ダイレクト機能拡充</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 三菱UFJウェルスマネジメントスイスの代理店業務開始</li></ul>
ライフ プランニング層	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 住宅ローン (金融円滑化への取り組み)</li><li>■ バンクイック</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 銀証・信証協働<ul style="list-style-type: none"><li>～ 金融商品仲介モデル加速</li></ul></li></ul>

# リテール戦略(2)～運用商品販売



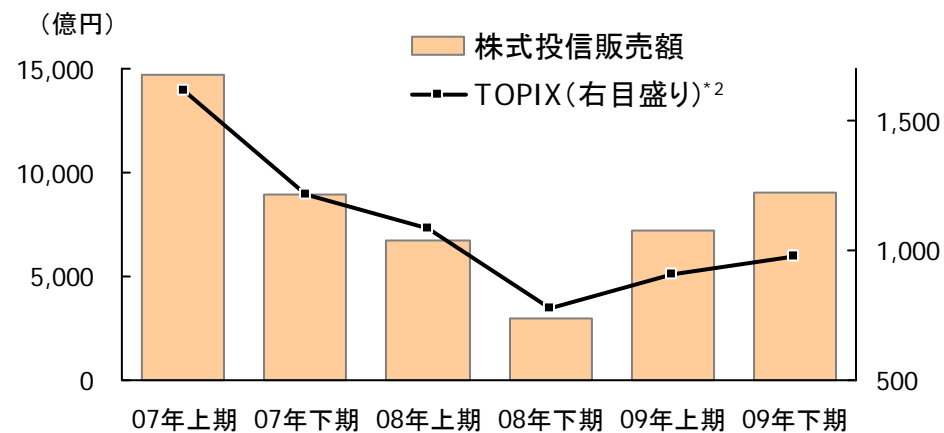
- 運用商品の販売回復・時価上昇により総預り資産は増加基調へ
- 運用商品収益も反転増加

## 総預り資産残高の推移\*1



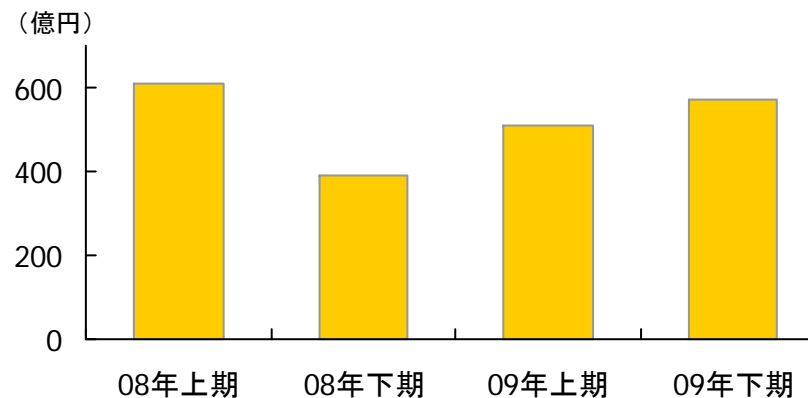
\*1 管理会計ベース

## 株式投資信託販売額の推移\*1



\*2 終値ベース

## 運用商品収益の推移

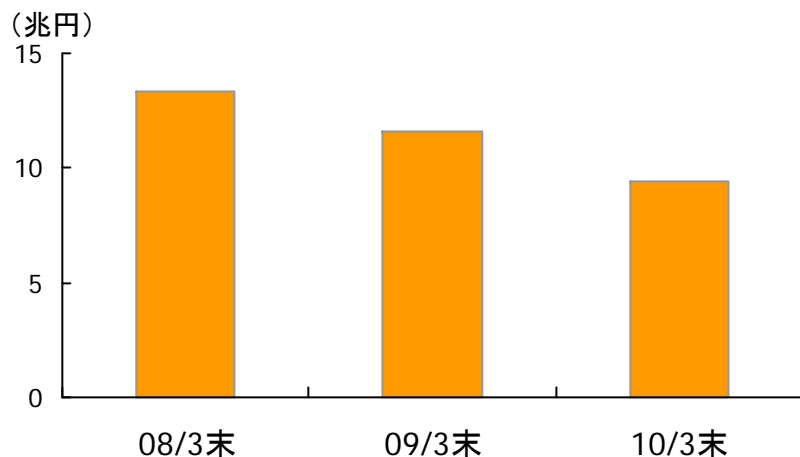


# リテール(3)～消費者金融



- 市場の縮小が続く中、健全な消費者金融事業を育成
- アコムは財務面の優位性を活かしシェア拡大、残存者利益を追求

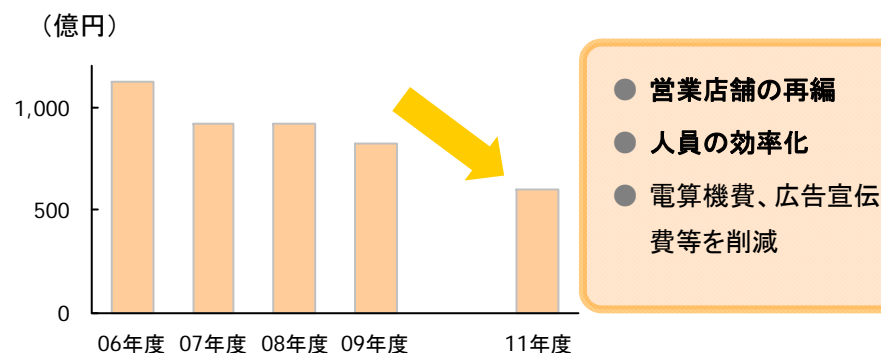
## 消費者金融業市場規模



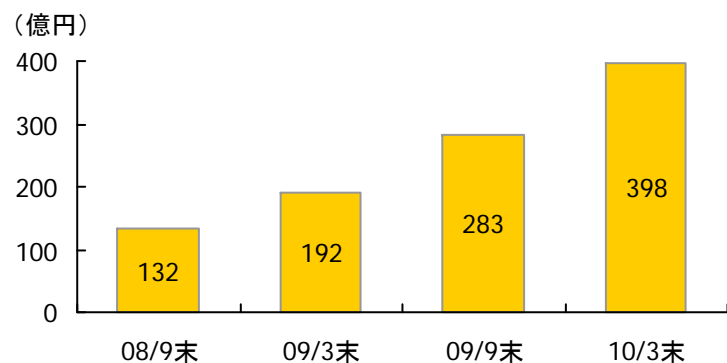
出所: 日本貸金業協会 (消費者向け無担保貸付残高)

## 経営体質強化 (アコム)

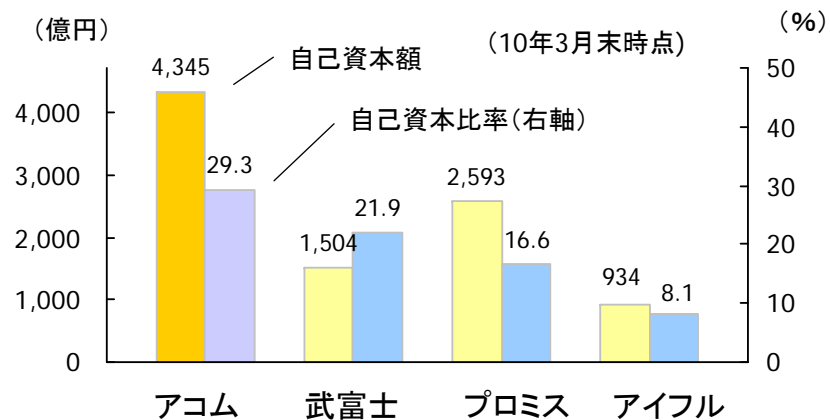
- 更なる経費削減により経営体質を強化



## バンクイック残高推移 (BTMU)



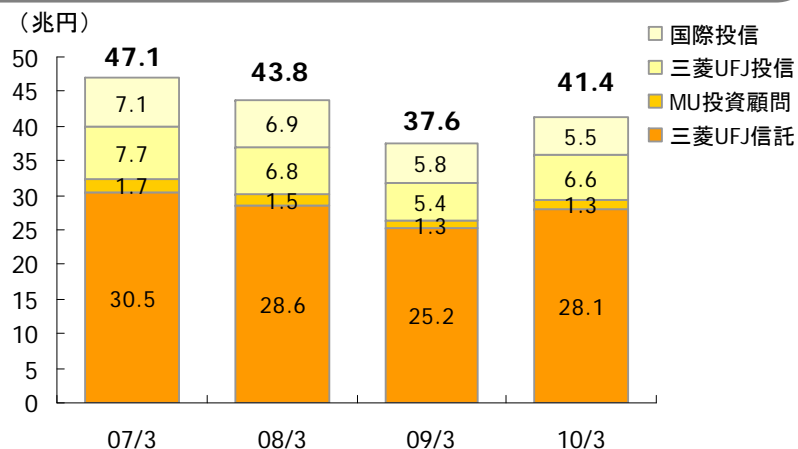
## 自己資本額と自己資本比率



出所: 各社公表資料

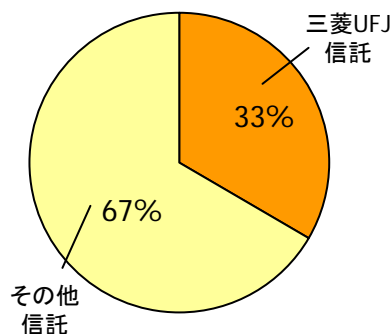
- 国内での確固たるシェアを維持・拡大させつつ、成長期待の高い海外の運用商品拡充と海外顧客開拓の両面での取組みを強化

## MUFGの運用資産残高

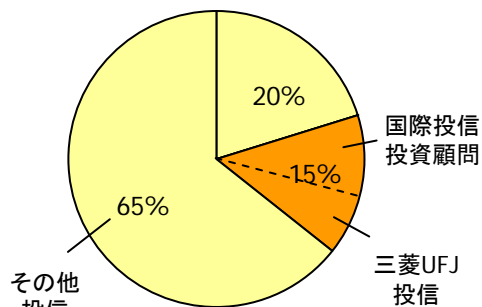


## 本邦における市場シェア

年金信託シェア (10/3末)



公募投信シェア (10/3末)



## グローバル・アセット・マネジメント

### ■ 海外運用商品の拡充

- ・ 多様化する本邦顧客ニーズに対応すべく、特色ある海外運用機関との提携を拡大

～エマージング運用に強みを持つ

アバディーン社 (英国・独立系大手)

の持分法会社化 (09年11月)



- ～出資提携先であるブラデスコ銀行Grのブラジル投資信託をMUAMIにて設定、MUFG各社にて販売開始



### ■ 海外顧客の開拓

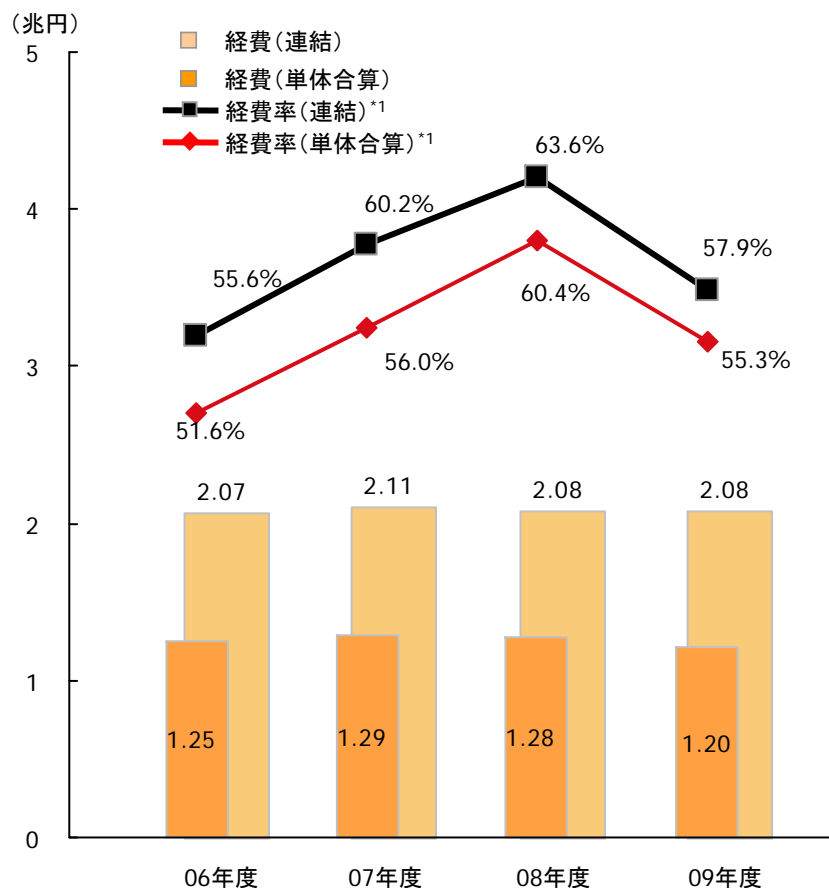
- ・ SWF等、海外顧客向けに日本商品を提供
- ・ 成長マーケットであるアジアを中心に、ノンオーガニック戦略も含め現地でのリテール／機関投資家市場への参入も検討

# 経営効率化



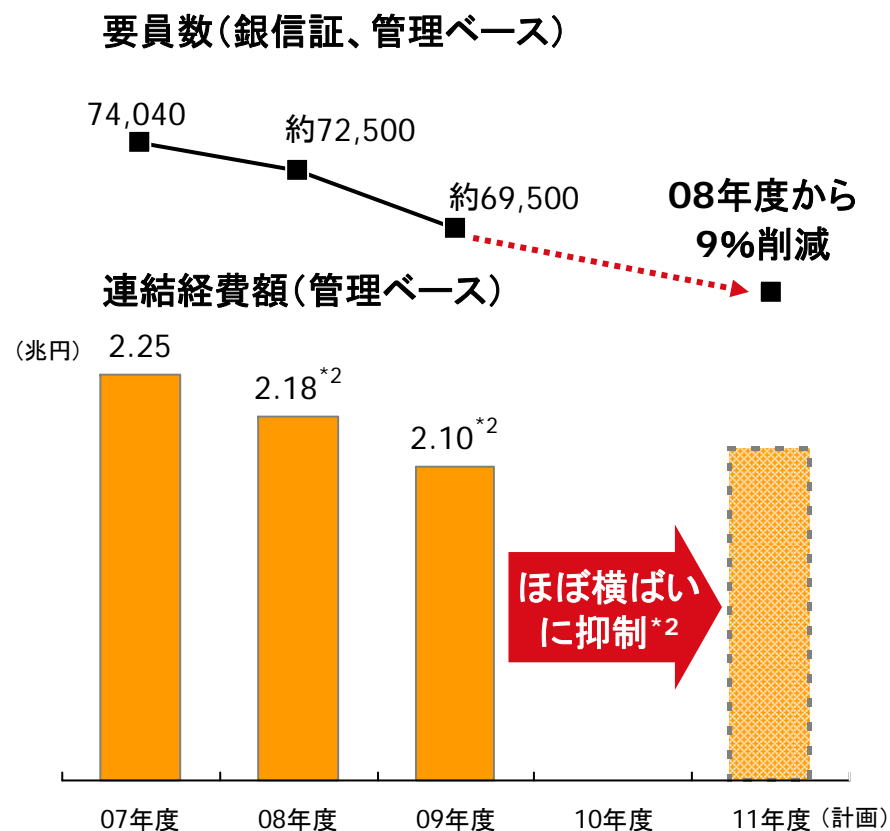
- システム統合効果と経営効率化により、単体合算経費は前年度比785億円減少、連結経費もアコム連結化要因を打ち返して前年度比横ばい
- 一層の経営効率化に取り組む一方、重点領域へは積極的に資源投入

## 経費の推移



\*1 経費率=営業経費 / 業務粗利益 (信託勘定償却前)

## 連結経費と要員数(銀信証)のイメージ



\*2 アコム連結化要因を除く

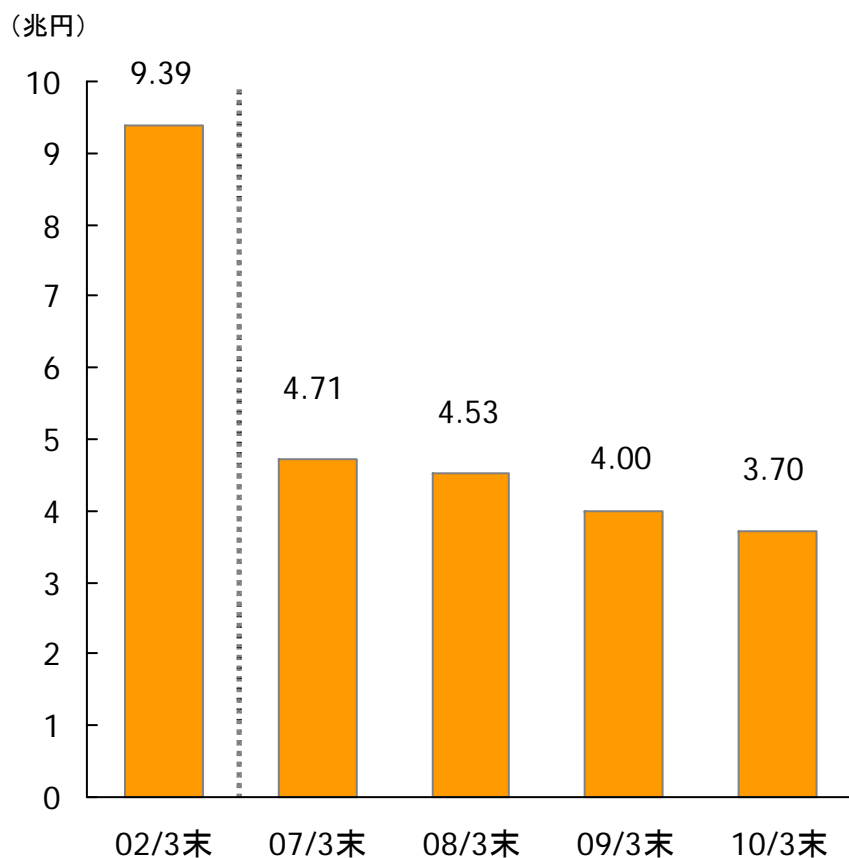
# 政策投資株式の削減

【単体合算】

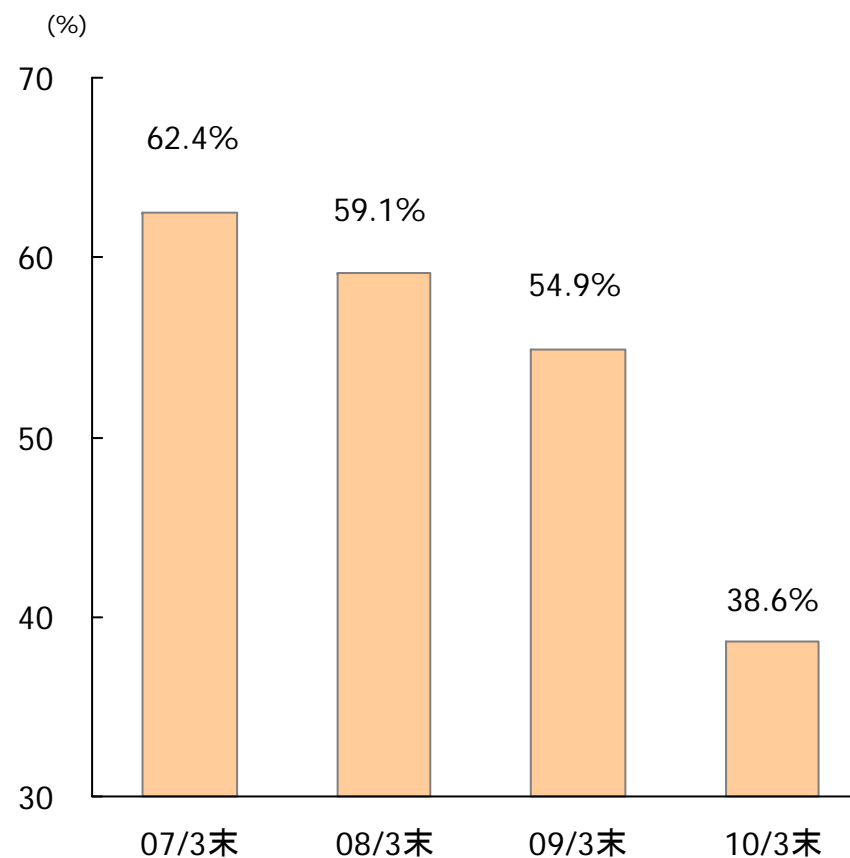


- 政策投資株式約2,700億円削減、保有株Tier1比率も38.6%に低下
- 株価変動の資本への影響を一段と抑制すべく、削減を継続

## 保有株式(取得原価)\*1



## 保有株式(取得原価)\*1対Tier 1\*2比率

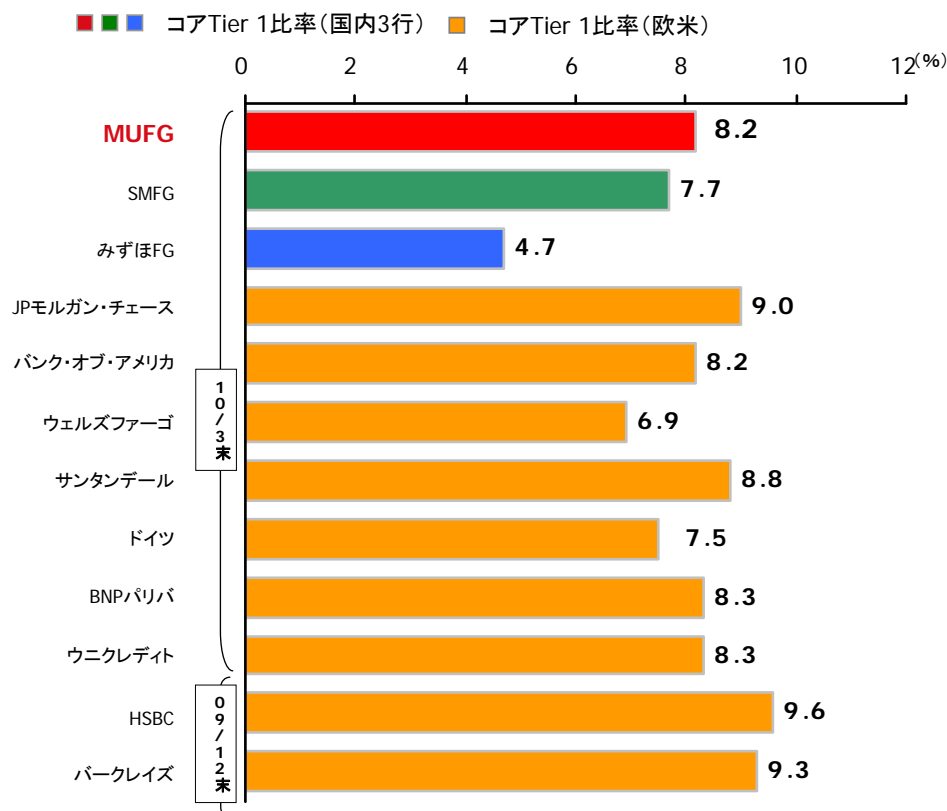


\*1 その他有価証券で時価のある国内株式の減損後取得原価 (単体合算)

\*2 Tier1資本 (単体合算)

- 資本基盤は国際的にも遜色ない水準
- 新規制の行方を注視しつつ、内部留保の蓄積によりコア資本を充実

## コアTier1比率<sup>\*1</sup>のグローバル比較



<sup>\*1</sup> コアTier1比率=(Tier1-優先株式-優先出資証券)/リスクアセット  
各国の会計制度・自己資本規制に基づく各社公表資料により当社作成

## 09年10月以降の資本政策

- **普通株式**  
新株式発行により約1兆300億円を調達(09年12月)
- **優先株式・優先出資証券**
  - ・優先株式(非転換型)2,500億円を買入消却(10年4月)
  - ・優先出資証券50億円を償還(10年1月)



- 「自己資本の充実」、「収益力強化に向けた資本活用」のバランスをとりながら、安定的な株主還元の確保を目指す



収益力

財務力

ブランド力

品格ある強い金融グループ

グローバルベースでも  
名譽ある地位を占める金融グループ

サービス  
No.1

Quality for You

信頼度  
No.1

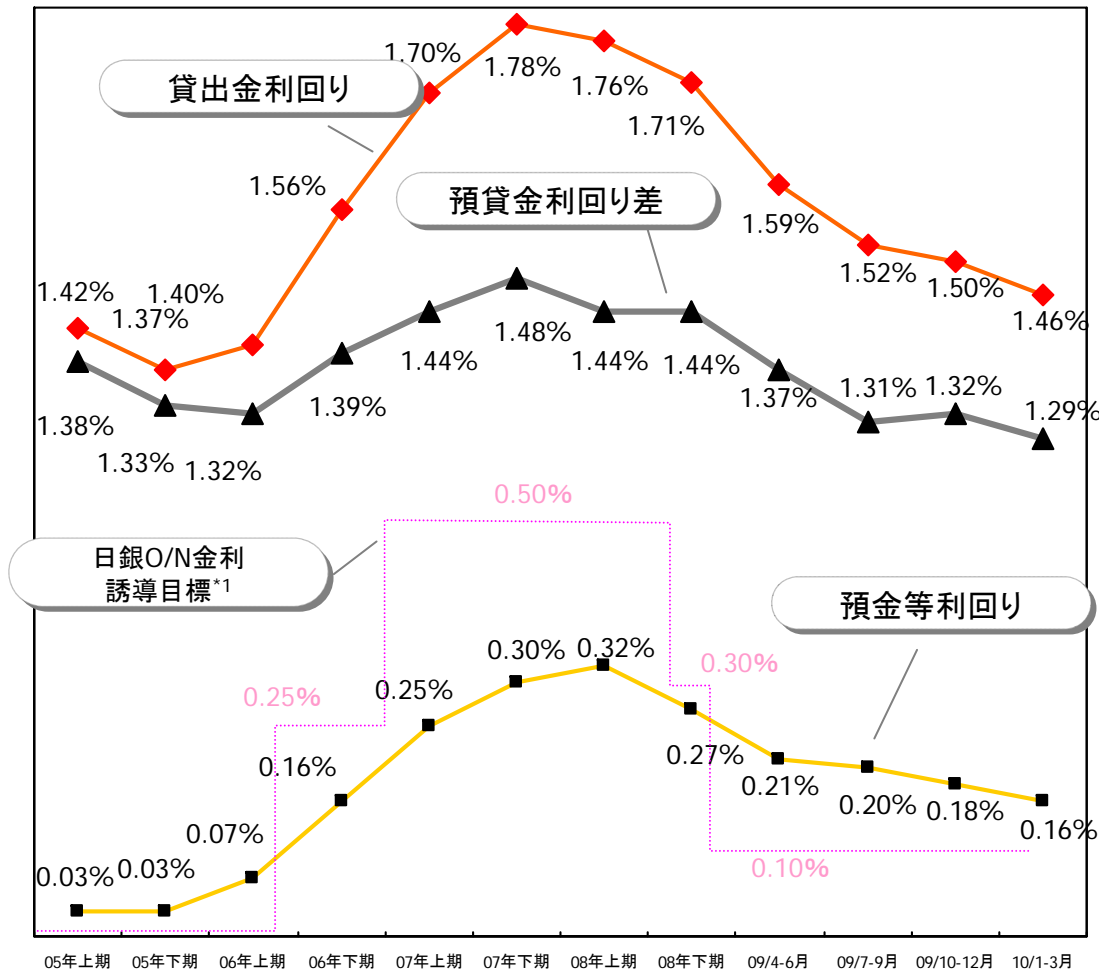
国際性  
No.1

# Appendix

Quality for You   
MUFG

●10年1-3月期の預貸金利回り差は1.29%

## 国内預貸金利回りの推移



## 【金利改定状況】

- 2008年11月4日  
普通預金金利 0.200% ⇒ 0.120%
- 2008年11月20日  
短期プライムレート 1.875% ⇒ 1.675%
- 2008年12月22日  
普通預金金利 0.120% ⇒ 0.040%
- 2009年1月13日  
短期プライムレート 1.675% ⇒ 1.475%
- 2009年4月1日  
新規住宅ローン変動金利  
⇒3月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利を基準に変更
- 2009年7月1日  
既存住宅ローン変動金利  
⇒4月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利を基準に変更

\*1 量的緩和時は無担保コールレートO/N市場金利。量的緩和終了後は無担保コールレートO/N誘導目標

● 証券化関連商品等の残高は約1.74兆円(09/9末比▲2,430億円)

● 残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)、管理ベース

- 証券化商品等の残高は、売却および償還により、1.74兆円に減少(09/9末▲2,430億円)
- 評価損益は▲1,250億円と、09/9末比810億円改善
- 通期の損益(P/L)への影響額は、減損等による▲110億円

## 残高及び評価損益

(億円)	残高		評価損益		内、満期保有目的の債券*	
		09/9末比		09/9末比	残高	評価損益
1 RMBS	800	▲250	30	80	0	0
2 うちサブプライム	220	▲120	60	60	0	0
3 CMBS	230	▲20	▲20	0	0	0
4 CLO	15,240	▲420	▲1,200	660	12,210	▲1,000
5 その他(カード等)	1,060	▲1,680	▲60	50	270	▲10
6 CDO	80	▲50	0	20	0	0
7 SIV	0	0	0	0	0	0
8 合計	17,410	▲2,430	▲1,250	810	12,480	▲1,010

\* 実務対応報告第26号「債券の保有目的区分の変更に関する当面の取扱い」の公表に伴い、平成21年1月末以降に保有証券化商品の一部を「その他有価証券」から「満期保有目的の債券」に区分変更。なお、上記満期保有目的の債券の残高・評価損益は、区分変更前の簿価を基準としています。

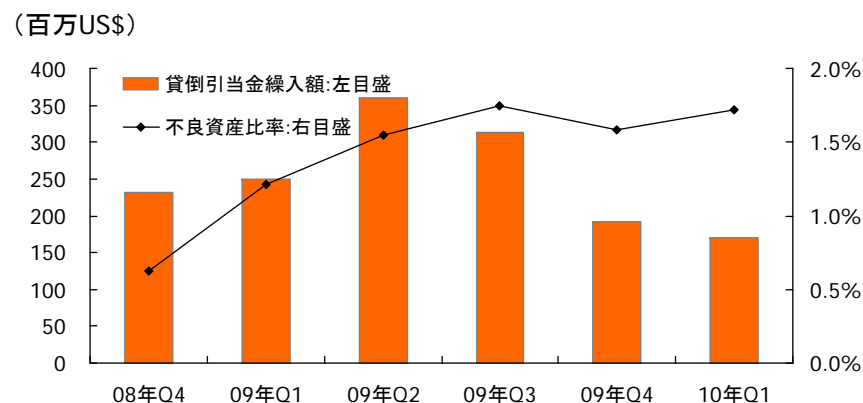
詳細は「データブック」P. 66～69をご参照ください

- 粗利の増加と与信費用の減少により10年第1四半期も純利益計上
- 高い信用力を背景に預金は大幅増加

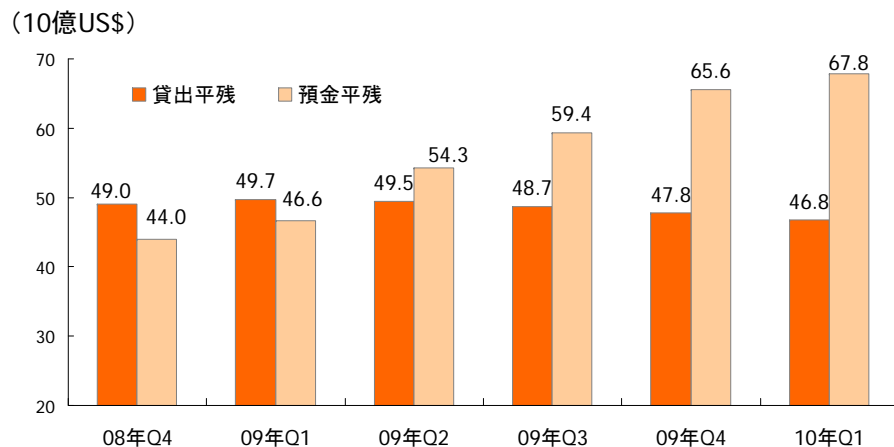
## 業績の推移

(単位:百万US\$)	09年				2,987	10年
	Q1	Q2	Q3	Q4		Q1
粗利益	737	736	748	765	2,987	786
営業費用	521	532	505	529	2,088	524
業務純益	215	204	242	236	899	262
貸倒引当金繰入額	249	360	314	191	1,114	170
当期純利益	▲9	▲80	▲17	41	▲64	77
当期純利益 (除く統合関連損益、 非継続事業)	11	▲66	▲5	55	▲5	89

## 貸倒引当金繰入額、不良資産比率の推移

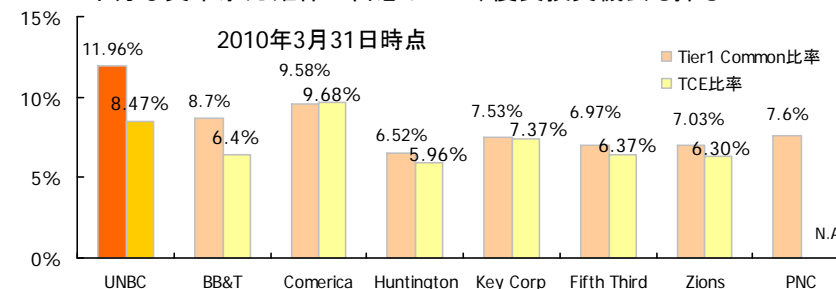


## 貸出・預金平残の推移



## 中核自己資本比率<sup>\*1</sup>の有力地銀との比較

- 悲観的シナリオを前提に20億ドルの予防的資本注入を行い、公的資金の注入を受けた米銀に劣後しない資本基盤を確保(09年9月)
- 十分な資本余力確保に留意しつつ、優良投資機会も探る



\*1 出所:各社公表資料  
 BB&T: BB&T Corporation, Comerica: Comerica Incorporated, Huntington: Huntington Bancshares Incorporated, Key Corp: Key Corp Ltd, Fifth Third: Fifth Third Bancorp, Zions: Zions Bancorporation, PNC: The PNC Financial Services Group, Inc.

# UNBC (2) 最近の買収案件



- FDICアシスト案件として、2行の資産・負債を買収

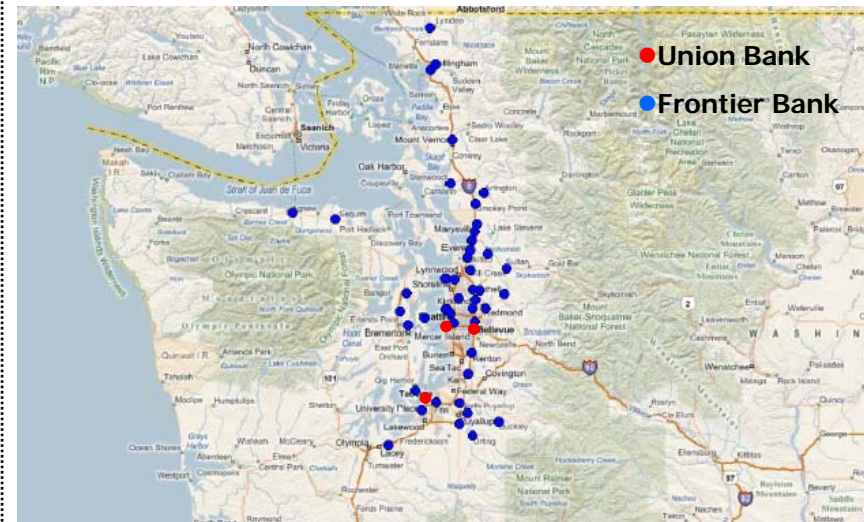
## Tamalpais Bank

- 買収資産・負債
  - ・資産 約6億ドル(うち貸出 約5億ドル)
  - ・預金 約4億ドル
- ネットワーク
  - ・カリフォルニア州マリン郡に7店舗
- 戦略的意義
  - ・高所得者層の多いマリン郡における店舗網・顧客基盤の拡大



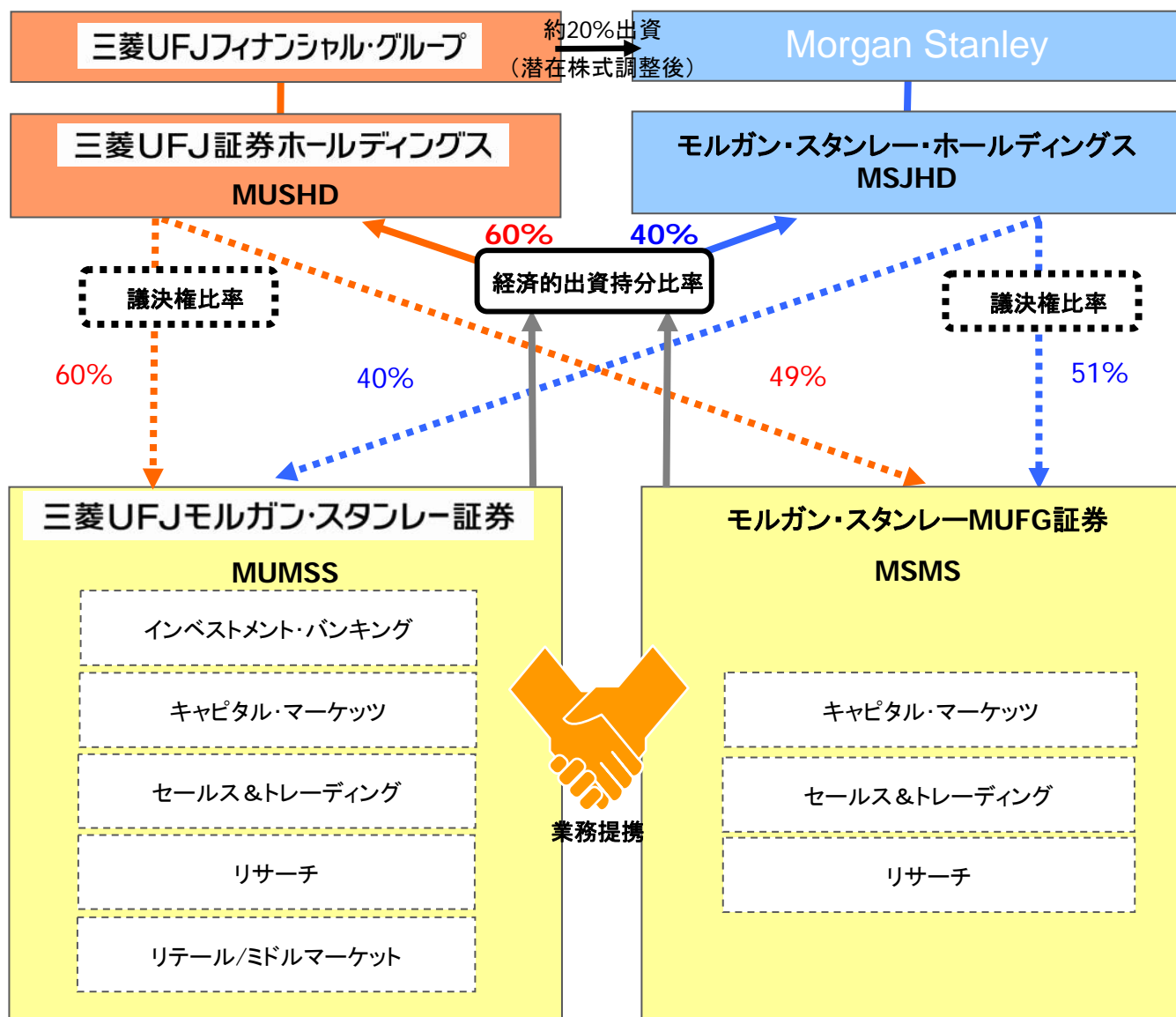
## Frontier Bank

- 買収資産・負債
  - ・資産 約32億ドル(うち貸出 約28億ドル)
  - ・預金 約25億ドル
- ネットワーク
  - ・ワシントン州に47店舗、オレゴン州に4店舗
- 戦略的意義
  - ・ワシントン州は市場規模、人口増加率等で全米50州中上位に位置する有望なマーケット
  - ・シアトルからサンディエゴまで、米国西海岸を南北に亘りカバーする店舗網を確立





# 日本における証券会社の統合



上記の議決権比率と経済的出資持分比率を実現するため、MMパートナーシップ(民法上の任意組合)を通じて、相互に出資を行う形態を採用

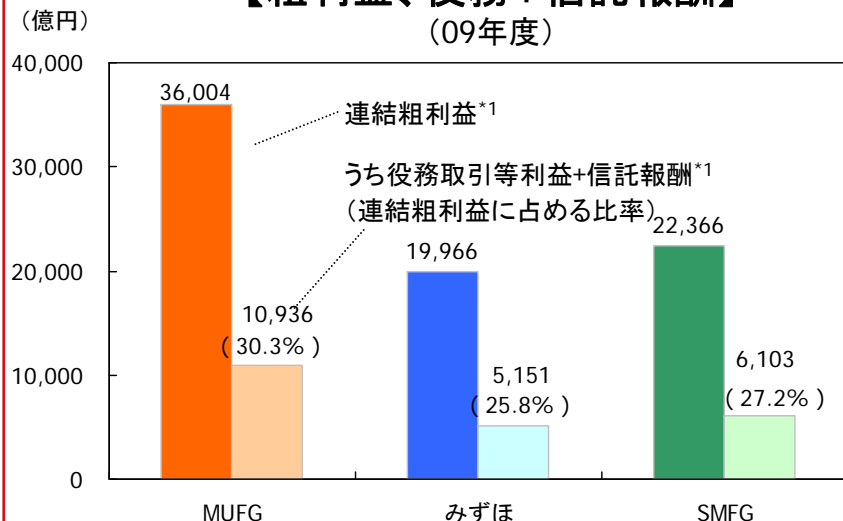
# 主要計数の他グループ比較 (1)

各社開示資料より作成  
(一部当社推定)



## 【粗利益、役務+信託報酬】

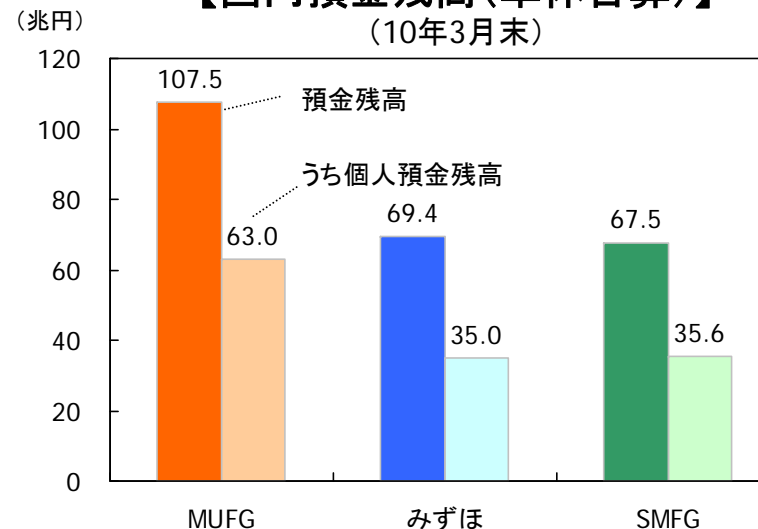
(09年度)



\*1 MUFGは信託勘定償却前

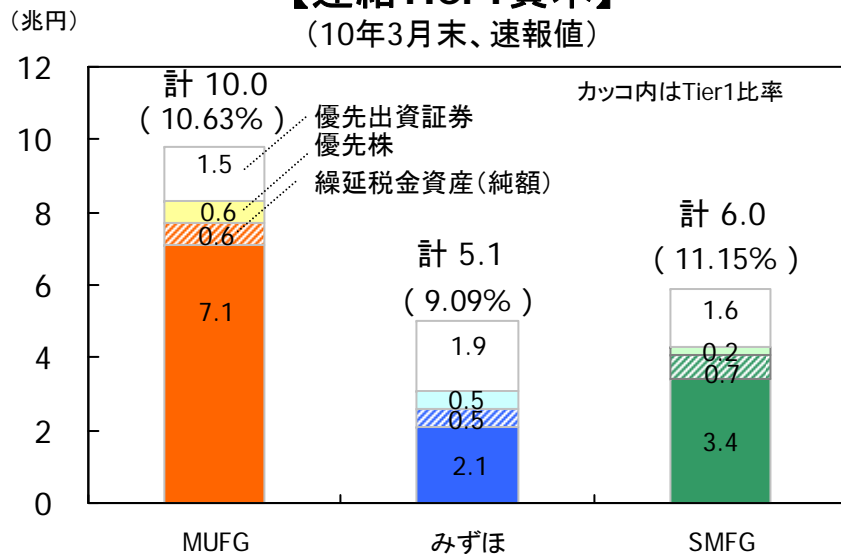
## 【国内預金残高(単体合算)】

(10年3月末)



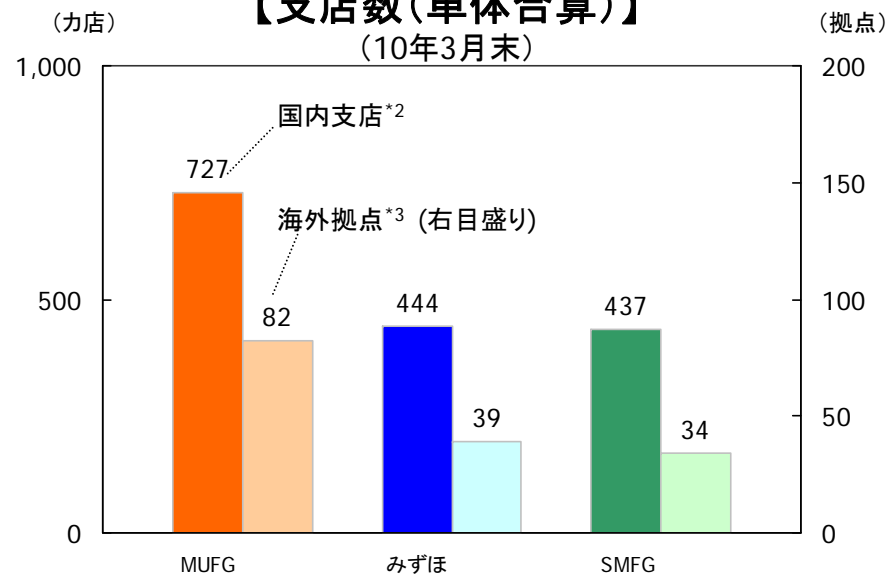
## 【連結Tier1資本】

(10年3月末、速報値)



## 【支店数(単体合算)】

(10年3月末)



\*2 出張所、代理店、駐在員事務所等は除く

\*3 支店、出張所、駐在員事務所の合計

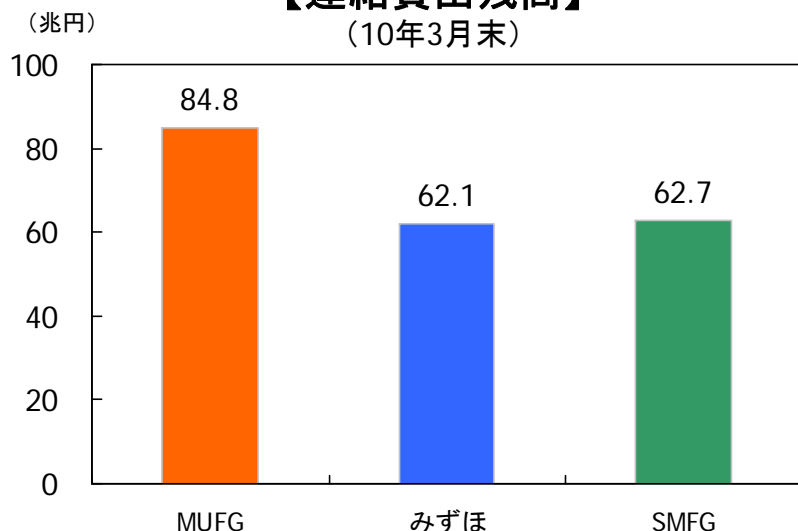
「データブック」P. 83もあわせてご参照ください

# 主要計数の他グループ比較 (2)

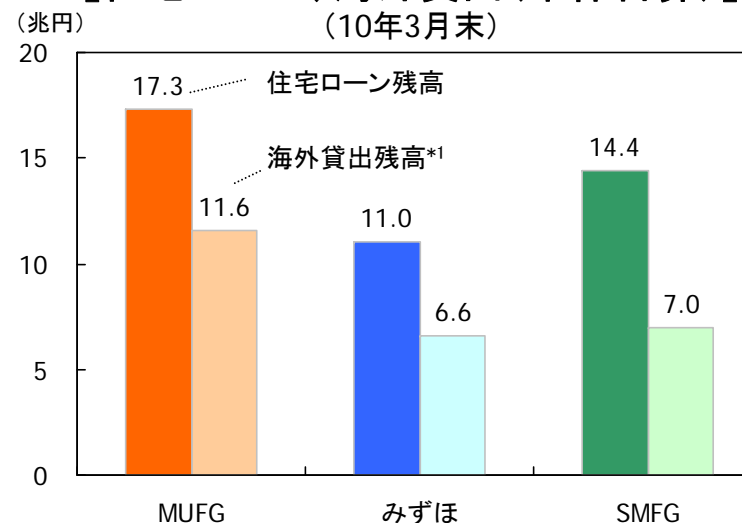
各社開示資料より作成



【連結貸出残高】  
(10年3月末)



【住宅ローン、海外貸出(単体合算)】  
(10年3月末)



\*1 海外店+オフショア勘定分

【不良債権比率(単体合算)】

